２０２２年度(令和４年度)

事 業 報 告 書

(自) ２０２２年 ４月　１日
(至) ２０２３年 ３月３１日

社会福祉法人　世田谷ボランティア協会

目　　次

はじめに …… 1

Ⅰ．ボランティア・市民活動推進事業部
　1．全体事業総括 ……4
　2．重点目標に対する取り組み……4
　3．ボランティアコーディネート事業……5
　4．ボランティア情報ネットワーク事業……6
　5．ボランティア学習事業……8
　6．地域連携促進事業……9
　7．パートナーシップ事業……10
　8．せたがや災害ボランティアセンター事業……12
　9．せたがやチャイルドライン事業……14
　10．ボランティアビューローの事業……16
　　①梅丘ボランティアビューロー事業……17
　　②代田ボランティアビューロー事業……18
　　③玉川ボランティアビューロー事業……19
　　④砧ボランティアビューロー準備室事業 ……21
　ボランティア・市民活動推進事業部
　　実績報　データ・資料編 ……24

Ⅱ．福祉事業　総括…… 35
　1．ケアセンターふらっと ……36
　　(障害者総合支援法　生活介護事業・自立訓練事業
　　・高次脳機能障害者支援促進事業・特定相談支援事業)
　2．ケアセンターwith…… 38
　　(介護保険　通所介護事業)
　3．ケアステーション連…… 41
　　(①介護保険　訪問介護事業、②障害者総合支援法
　　居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、
　　③自由契約による事業)
　4．ケア相談センター結…… 42
　　(介護保険　居宅介護支援事業　認知証当事者の
　　ための社会参加プログラム開発研究事業)
　5．地域障害者相談支援センターぽーとせたがや…… 44
　　(障害者総合支援法　地域生活支援事業)
　6．パートナーセンター事業 ……46
　福祉事業部　実績報告 データ・資料編……48

Ⅲ．組織推進事業　総括…… 56
　　組織運営・事務局運営・財務運営

組織運営体制図 ……63

２０２２年度事業報告

はじめに

２０２２年度は、新型コロナウイルス感染症が収束しない中で３年目を迎え、世田谷ボランティア協会（以下、「協会」という。）は途絶えていた地域との交流や体験型の事業、ボランティア養成事業等を再開した。事業再開においては感染防止を徹底するとともに感染状況によっては事業規模を縮小することも念頭におきながら、止める選択から動かすことを主眼に置き取組みを進めた。また、福祉事業部は、感染防止対策の徹底はもとより、通所を利用できない利用者に対応するためオンラインを活用したコミュニケーション活動を実施するなど通所とオンラインの双方を活用したハイブリッドな運営を行った。

コロナ禍という厳しい状況においても、協会は地域や関係者と連携し「おたがいさま」の関係を地域に根付かせ、繋ぎあわせ、面として拡大し、全区において協会の使命とする「ボランタリーなコミュニティの創造」の実現に向け取組みを進めた。

◆ ボランティア・市民活動推進事業部

地域の拠点施設であるボランティアビューローを区内各地域に設置するため、開設から40年以上利用いただいた代田ボランティアビューローと梅丘ボランティアビューローを統合し、2023年4月から北沢ボランティアビューローに名称を変更して北沢地域の拠点施設として再スタートした。また、烏山地域へのボランティアビューローの新設に向け準備を進め2023年4月に開設した。

チャイルドライン事業では、コロナの影響が長引く中、2020年9月から運用を開始したオンラインチャットによる相談を継続するとともに、リーフレットやニュースレター、広報紙を活用した周知活動や再開した事業でのバザー活動等、感染症の影響で中止となっていた活動を再開した。

災害ボランティアセンターでは、各地域に設置するマッチングセンターでボランティアを受け入れるボランティアコーディネーターの養成やステップアップ等の講座を実施した。また、地震被災地への募金活動や災害被災地でのボランティア活動の支援を行い、日頃から災害時に効果的な復興・復旧支援につながるよう取組みを進めた。

◆ 福祉事業部

新型コロナウイルス感染防止を徹底し、通所者の受け入れを継続するとともにオンラインを活用し通所を控えている方にも対応できるよう工夫して取組みを進めた。

また、福祉事業部の強みである地域のなかの多くの方との「つながり」を活かし2023年2月「スペース　ココカラ。」を開設した。誰もが立ち寄れる地域にひらかれたスペースとして、相談の機能と障害のある方が主体的に参加する活動のなかで主役となる拠点を目指し事業を展開している。

◆ 組織推進部

コロナ禍においても協会運営が滞ることがないよう関係情報を収集し対応方針を示し、共有して、協会が一丸となって感染防止と事業継続に向けた取組みを進めた。

また、事業の休止や縮小によりバザー収入が減収となる中、寄附者への情報提供方法の工夫や給与明細のWEB化による事務改善を進めた。さらに、会議にオンラインを活用しテレビ会議を実施することで会場参加とのハイブリッド方式により出席者の利便性を確保した。

事 業 報 告

Ⅰ．ボランティア・市民活動推進部

Ⅱ．福祉事業部

Ⅲ．組織推進部

Ⅰ．ボランティア・市民活動推進部

1　全体事業総括

新型コロナウイルス感染症により各種事業が中止や縮小していた期間を経て、感染防止を徹底しながら地域や全区を対象とした事業が徐々に再開された。ボランティア・市民活動推進部においても、ボランティアセンターやボランティアビューロー等の拠点施設で団体が共に活動・交流する機会や場の提供、地域イベントへの参加、福祉事業部と連携した事業の実施等、コロナ禍で途絶えていた交流や関係性を深める事業を積極的に行った。

ボランティア活動や地域のつながりを生かして「おたがいさま」の関係が循環する地域づくり・安心してくらしていけるまちづくりを目指し、この間、地域の活動拠点であるボランティアビューローを世田谷区内５地域に設置し事業を展開することをボランティア協会の中期計画（2020～23 年度）に位置付け、取組みを進めてきた。2020 年度の砧ボランティアビューロー準備室設置に続き、2022 年度には代田と梅丘を統合し 2023 年４月に北沢ボランティアビューローとして名称を変更した。さらに 2023 年４月の烏山ボランティアビューロー開設につなげた。

コロナ禍により従前にも増して子どもを取り巻く状況が厳しい中、子どもが安心して話ができ、子どもの気持ちを受けとめるチャイルドラインの活動を、電話とチャットを使い引き続き実施した。

災害ボランティアセンターは、活動へのより多くの区民の参加を促すべく、区内５地域各１か所のマッチングセンターでボランティアを受け入れるボランティアコーディネートの養成やステップアップ等の講座等を実施した。日頃からの事業展開を災害時に効果的な復興・復旧支援につなげ、また、被災地へのボランティア派遣に対応できるよう、適時適切な支援が可能となるよう取組みを進めた。

2　重点目標に対する取り組み

1982 年に開設したボランティアビューロー2 拠点（代田と梅丘）を統合し、2022 年 12 月から梅丘ボランティアビューローを統合後の北沢地域の拠点施設とした。これに伴い、各ボランティアビューローで実施していた事業を見直すとともに、活動団体に適時適切に情報提供して交流の機会を設け、会議室等利用団体登録を改めて行う等の調整を行い、統合後の施設運営を混乱なく進めることができた。また、烏山ボランティアビューローの開設に向けて部内に専管組織を設け、施設借り上げ、内装工事等の整備を進めて 2023 年４月の開設にこぎつけ、区内５地域における拠点整備を実現することができた。

コロナ禍の状況をみながら、「雑居まつり」「ごきんじょ市」「極楽フェス」「世田谷ボロ市」等全区や地域を対象にした事業に積極的に実施・参加し、協会のＰＲや交流の場を創出するとともにバザーによる自主財源の確保に努めた。

また、総合的な学習の時間において福祉学習を行い。ボランティアビューローにおいても発達障害の理解を深める講座を実施する等ボランティア学習の機会の提供に努めた。

せたがやチャイルドライン事業は、受け手養成公開講座の修了者を対象に専修講座を実施し、受け手の養成を進め、交流の機会を設けるとともに、公開講座の準備を進める等の活動支援を行った。

せたがや災害ボランティアセンター事業は、『災害ボランティアコーディネーター養成講座（基礎編）』を５つの協定大学において順次実施し、養成講座の修了生を対象にスキルアップ講座を実施して、ボランティアコーディネーターの知識の拡大の機会を提供した。さらに、静岡県清水区の台風 19 号被害の復興支援としてボランティアバスを運行した。

3　ボランティアコーディネート事業

（1）事業方針

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・団体等の活動のコーディネートを、地域とのつながりやボランティア自身の学びの機会として更に拡大していけるよう支援を行う。

活動拠点の特性を活かし情報発信や場の提供等を行いＮＰＯやボランティア活動団体への支援を充実していく。

（2）取り組みと進捗・活動状況

①ボランティア相談

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談をセンターやビューローで受け、活動のコーディネートを行った。

ボランティア活動希望は534名(前年度368名比45%増)、ボランティア求むの相談は217名(前年度165名比31%増)、ボランティア以外の相談は228件(前年度138名比65%増)であった。様々な活動がコロナ禍から徐々に再開傾向にあったことを背景にいずれも増加しており、代田ボランティアビューローを梅丘と統合したことによる影響は、数字上は表れていない。

ボランティアニードの内容では、子どもに関わる支援（例：障害があって友達と遊ぶのが難しいので一緒に遊んで欲しい、一人で勉強するのが難しいので誰かに寄り添ってもらいたい)、傾聴(例：一人暮らしだと寂しいので話し相手が欲しい)、犬の散歩など多岐にわたっている。

ＮＰＯ団体向けの専門相談は、当協会が団体からの相談をより専門的なアドバイスを踏まえ課題解決に向けた取り組みにつながるよう2022年4月から開始した。ＮＰＯ・市民活動団体向けに運営の基礎知識を学び活動に活かすセミナーも実施した。

②ＮＰＯ・市民活動相談

世田谷区（市民活動推進課）からの委託事業として、ＮＰＯ等市民活動の相談窓口を開設し、任意団体の立ち上げ・運営や、ＮＰＯ法人の設立などの相談に対応した。

任意団体立ち上げ・運営の相談は微増であった。2022 年度から開始した専門相談は団体の決算時期にあたる第1四半期は会計税務に関する相談が多かった。第2四半期以降も相談件数は減少したものの、労務に関する相談など、団体に寄り添い、運営が円滑に進むよう対応した。また、活動団体向けのセミナーでは、活動形態に合わせた運営が可能となる情報提供を行い、相談に対応した。

【ＮＰＯ・市民活動団体向けセミナー開催実績（2022年度)】

実施日	テーマ・内容	参加者数
10月29日(土)	「ＮＰＯの基礎知識　～自分たちに合った法人格を選ぶ～」 講師　森玲子　氏（東京ボランティア市民活動センター相談員）	16名
3月18日(土)	「ＮＰＯのはじめの一歩　～これから活動をはじめるあなたへ～」 講師　森玲子　氏（東京ボランティア市民活動センター相談員）	18名

③世田谷区提案型協働事業

世田谷区が実施している「提案型協働事業」は、区が地域の課題解決等を行うＮＰＯ等を募集し、活動に必要な補助金を支給する仕組みである。ボランティア協会は、中間支援組織として、個々のＮＰＯ等を支援し、事業を実施するＮＰＯ等と企業・行政をつなぐ結節点としての役割を担い、事業の調整・管理や実施団体へのサポートおよびコーディネートを行った。

【年間スケジュール】

・エントリー受付（4月1～8日）
・選定委員の選出
・団体への提案書作成サポートと受付（5月13日～切)。9団体から提案書提出
・一次選定会（5月27日)、二次選定会（5月31日）開催。6団体を選定

・区と団体との協定書締結のための個別連絡会調整（6～7月）、協定書締結サポート
・提案型協働事業HP（協会HP内）掲載（7月末）
・団体のイベントの広報、見学、選定委員への参加呼びかけ
・団体の中間報告書作成サポート（10月）、中間報告会開催（10月31日）
・中間支援組織として、区に中間報告書を提出（12月15日）
・成果報告会開催（3月24日）、最終報告書とりまとめ

④傾聴ボランティア

ひとり暮らしや日中独居高齢者等への精神的なサポートを行うため、関係機関の協力を得て傾聴のニーズを把握し、傾聴活動のスキルを持ったボランティアをコーディネートした。

また、地域包括支援センターや民生委員・児童委員に傾聴ボランティアの派遣と傾聴ボランティア講座の実施について周知を行った。

傾聴ボランティア講座修了後の活動者を対象に、ボランティア活動中の出来事や困りごとを共有しながら学習する機会として、ロールプレイ、ケース検討等のフォロー講座を実施した。

【傾聴ボランティア講座　開催実績（2022年度）】

会場	実施日	参加者数
玉川ボランティアビューロー	6月8、15、22日、7月6、13日（全5回）	13名
粕谷区民センター	9月20、27日、10月4、18、25日（全5回）	14名
成城まちづくりセンター	1月24、31日、2月7、21、28日（全5回）	15名

（3）今後の課題

長年の課題であった区内5地域における活動拠点が整備されたことを活かし、情報発信や場の提供等を行っていく必要がある。市民活動支援事業については、区が新たな基本計画を策定して2024年度からスタートさせることを見据え、ＮＰＯやボランティア活動団体への支援充実を図るべく、引き続き区との連携を図る必要がある。

4　ボランティア情報ネットワーク事業

（1）事業方針

紙媒体による情報誌「セボネ」やビューローだよりと、ホームページ、ブログ、Facebook、Twitter、メールマガジンなどのＷＥＢ（ウェブ）媒体の特徴を活かしつつ、多様な市民活動の紹介や、活動情報の充実を図り、地域にかかわるきっかけとなるよう情報の発信に力を入れる。

（2）取り組みと進捗・活動状況

ボランティアに関する情報センターとして、ボランティア募集情報と併せて活動に必要な知識やスキルを得る講座等、ニーズや社会の状況に対応した情報発信に努めた。

①紙媒体での情報発信

「人が変わる 社会が変わる」をコンセプトに、生活のあらゆる場面からボランティアを身近に感じてもらうための情報誌「セボネ（セタガヤ・ボランティア・ネットワーク）」を毎月約4,500部発行した。

特集記事や団体紹介等の掲載内容の検討にあたっては、ボランティアの編集委員による編集会議を毎月開催し、誌面の充実を図った（10月号は災害特集号としてカラー印刷）。

セボネ編集委員（敬称略）	星野弥生、佐藤研資、市川徹、鈴木朋子、清藤千秋、中部香世
編集会議開催日	4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、9月7日、10月4日、11月8日、12月6日、1月10日、2月9日、3月7日
発送作業ボランティア	毎月3～4名

【ボランティア情報誌「セボネ」発行実績（2022年度）】

発行月	誌　面　内　容
４月号 イラスト 本田　みーお	★特集「ＮＰＯ＆市民活動応援セミナー報告実践者とコミュニティワーカ ★まちの市民力！「まなＢＡＳＥ」 ★キラリ世田谷人「橋本　則子さん」
５月号 イラスト ＨＡＰＰＡ	★特集「ご存知ですか？夜間中学～「こんばんはⅡ」を観て語り合う～」 ★まちの市民力！「シモキタ園藝部」 ★キラリ世田谷人「中泉　元尋さん」
６月号 イラスト 魚眼亭	★特集「せたがや学生ボランティアネットワークの活動～大学生のボランティア活動を支援～」 ★キラリ世田谷人「児玉　勇二さん」 ★おたがいさまフェスタ2022開催レポート
７月号 イラスト ちひろ	★特集「せたがや災害ボランティアセンターの活動」 ★キラリ世田谷人「松田　妙子さん」 ★ナツボラ・ジュニア2022開催のお知らせ ★烏山もったいないバザールレポート
８月号 イラスト しおりん	★特集「やってみたい」をはぐくむ「ゆめパのじかん」 ★まちの市民力「学生団体ＵＬＹＳＳＥＳ（ユリシス）」 ★せたがや災害ボランティアセンターレポート～松原高等学校定時制課程奉仕体験活動～
９月号 イラスト コスモス	★特集「子どもの学習支援の取り組み」 ★まちの市民力「のざわテット―ひろば」 ★レポート「第3回せたがや居場所サミット～ケアする場所は「居場所」から～」 ★レポート「第43回せたがやふるさと区民まつりに参加しました」
10月号 イラスト よねもとたまお	★特集：災害ボランティアコーディネーターについて ★レポート：ナツボラ＆ナツボラジュニア ★お知らせ：梅丘と代田ボランティアビューローを統合します ★セタボラスタッフ2022
11月号 イラスト 安野壮 （Apollo）	★特集：老人給食協力会ふきのとう～40周年にむけて～ ★まちの市民力!!：馬事公苑界わいコミュニティデザインプロジェクト ★せたがやキラリ人：磯﨑寿之さん ★レポート：「第47回雑居まつり」に参加しました
12月号 イラスト あすか	★特集：性に対する思い込み、ひっくりかえしてみませんか？ ★せたがやキラリ人：阿部　温子さん ★レポート：【ＮＰＯ・市民活動応援セミナー】ＮＰＯの基礎知識 ～自分たちに合った法人格を選ぶ～
１月号 イラスト 極楽フェスに参加してくださった皆様	★特集：音訳でくらしに喜びを 世田谷録音奉仕グループ『ひびき』の45年とこれから ★せたがやキラリ人：牧野　桂子さん ★レポート：第6回ごきんじょ市を開催しました！
２月号 イラスト MIDO	★特集：学生と地域がつながる　　せたがや学生ボランティアフォーラム ★まちの市民力：タマリバタケ ★レポート：せたがや災害ボランティアセンターレポート 防災シンポジウム「子どもたちと災害」 ★ミニレポート：世田谷ボロ市に参加しました！

3月号 イラスト 海	★特集「回復」を信じて、仲間と進む。 ★まちの市民力：ぬくぬくの家 ★お知らせ：烏山ボランティアビューローの新設&北沢ボランティアビューローへの名称変更

ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を地域の人たちに提供するため、各ビューローによる「ビューローだより」（代田は「ボランティアだより」）を毎月発行した。

【毎月の発行部数】

梅丘 1,720 部(2022 年 12 月から 2,540 部)、代田 1,110 部(2022 年 11 月まで)、玉川 1,950 部、砧 1,490 部

②ＷＥＢ媒体による情報発信

協会ホームページを運営した。閲覧数は、前年度と比べると全体として増加傾向にある。ホームページ投稿数は前年度より増加しており、より多くの人にホームページを利用いただけるように、Facebook やメールマガジンなどの媒体利用を図った。

③ボランティア情報サイト「おたがいさまbank」を活用した情報提供

関心のある分野で登録していただき、情報を必要とする人に定期的にボランティア情報を発信して、地域における日常的なボランティア活動の担い手拡大を図った。

・登録人数　　3,218 名（従来からの登録者含む）

・男女比　　男性 30%、女性 70%

④ＡＩシステムによるマッチングサイト（世田谷版ＧＢＥＲ）

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したＡＩシステムによるマッチングサイト（世田谷版ＧＢＥＲ（ジーバー））で結び付け、ボランティア活動を支援した。

⑤ボランティア・市民活動情報の収集と掲示・展示コーナーの設置運営

区内外の市民団体や関係機関の資料を収集し、掲示・展示コーナーを設けて、協会に寄せられる市民団体や地域活動等の情報提供を行った。

（３）今後の課題

情報の受発信方法について、紙媒体とＷＥＢの双方の利点を活かして効果的な情報発信を図るとともに、コロナ禍を経て再開しつつある様々な活動を積極的に紹介していく必要がある。

区から要望のある外国人相談事業へのボランティア派遣等、今日的な新たなニーズにも対応を図る必要がある。

５　ボランティア学習事業

（１）事業方針

小・中学校、高校での総合的な学習の時間や体験活動のコーディネート等の授業協力により、次世代のボランティアを育てていく。ナツボラなどの体験プログラムのほか、災害ボランティア活動等、学生の興味・関心が高い分野について参加の機会を提供していく。

（2）取り組みと進捗・活動状況

①総合学習・奉仕体験活動等コーディネート

小中学校の「総合的な学習の時間」等の活用、区内の高校・大学からの依頼により、ボランティア活動に参加するための事前学習として、授業の中で「ボランティア入門講座」等を実施した。

②夏のボランティア体験プログラム「ナツボラ」

区内に在住・在学の中・高・大学生及び30歳位までの青少年を対象に、「ボランティア体験」として、センターやボランティアビューローで体験型プログラムを夏休み中に実施した。

新型コロナの影響で中止していたが、2022年度は3年ぶりに7～8月に実施した。

③小学生向けプログラム「ナツボラ・ジュニア」

夏休み中の地元の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動を知ってもらい、地域のささえあいの心を育むことを目的として、ボランティアセンターおよびボランティアビューローを拠点に活動しているボランティアグループや地域の福祉施設等の協力を得て、5 拠点合同で、ボランティア1日体験プログラムを企画、実施した。

・体験期間　7月21日～8月31日（7月9日～申込受付）

・参加者数　計75名

（3）今後の課題

コロナ禍において中止あるいは縮小を余儀なくされていた活動が徐々に再開され、ボランティア活動や体験プログラムへのニーズも高まっている。このことを踏まえ、参加の機会提供やコーディネートを引き続き積極的に進めていく必要がある。

6　地域連携促進事業

（1）事業方針

区内のボランティア団体、ＮＰＯ等との連携と交流を深め、ボランティアセンター、ボランティアビューローそれぞれの地域に根ざした事業を、感染症の状況を踏まえながら推進する。

コミュニティ・ビジネス事業を通じて、生活の中にリユース、リサイクル活動を意識づけ、身近なところから活動に参加できる機会を提供する。併せて、活動の拠点であるボランティア相談窓口の周知と活動資金の確保を図る。

（2）取り組みと進捗・活動状況

①自主活動への支援

営利を目的としない区民・団体の自主活動を支援するため、ボランティアセンター、ボランティアビューローの会議室や機材の提供等を行った。感染防止対策の観点から、会場利用の人数に定員を設定して密にならない工夫や、使用中の換気の徹底、使用後の消毒などを実施した。

【イブニングプログラム】

ボランティアセンターのオープンスペースを夜間時間帯に有効活用し、地域の人たちが気軽に参加できるボランティア活動のきっかけとなる機会を提供した。

・編み物ボランティア「ニットカフェ」

地域とのゆるやかなつながりをつくるプログラムとして、バザー品として提供される毛糸の再利用も兼ねた「編み物カフェ」を毎週水曜日に実施した。

②他団体と連携した事業の開催、参加、出展

区内で開催される様々な催し・イベントに参加して活動案内を行い、協会の認知度を高めるとともにボランティア活動のきっかけとなる機会を提供した。

③コミュニティ・ビジネス事業

協会の活動を継続するためには、運営を支える資金確保も重要な取組みであり、コミュニティ・ビジネス事業として、バザー品の仕分け、値付け等に地域の協力を得てリサイクルやリユースの取り組みを推進し、自主財源としての事業活動資金の確保をする「リサイクル市」（協力：バザーグループ「てんとうむし」）、16団体の参加による「烏山もったいないバザール」を行った（提供品の受付は引き続き中止）。

（3） 今後の課題

区内５地域に活動拠点が整備されたことを活かし、それぞれの地域に根ざしてボランティア団体、ＮＰＯ等との連携と交流を推進していく。また、コロナ禍を経て様々な地域活動が再開されていることを背景に、感染症対策の観点から休止あるいは縮小していたコミュニティ・ビジネス事業を徐々に再開していく必要がある。

７　パートナーシップ事業

（1）事業方針

地域福祉やボランティア活動をキーワードに多様な組織を横につなぐことができる協会の強みを生かして、ボランティア団体、ＮＰＯ、行政、関係機関、企業等とのパートナーシップを深め、地域の社会資源のネットワーク化を図り、事業を展開する。

（2）取り組みと進捗・活動状況

①世田谷市民活動支援会議への参加

世田谷区内の中間支援機関と行政が集まり、情報交換を行った。

【参加団体・組織】

世田谷区社会福祉協議会、せたがや文化財団(生活工房)、世田谷トラストまちづくり、国際ボランティア学生協会、世田谷ボランティア協会、世田谷区市民活動推進課（主催）

②第39回ボランタリズム推進団体会議（民ボラ会議）への参加

オンラインと会場（東京都）のハイブリッドで5月28日（土）と29日（日）に開催され、協会も参加した。ＩＣＴ(情報通信技術)の広がりによって、ボランティア・市民活動においても問われる情報の信頼性、ＳＮＳなどでの発信におけるリテラシー、アドボカシーやネット社会のもつ危険性、市民がジャーナリストとして発信することの意義や、社会に訴えていく上での問題意識、留意すべき課題など、広範にわたる情報交換、意見交換を行った。

③世田谷区職員研修への協力

世田谷区の採用１年目職員を対象に、区より受託した「障害福祉体験」研修を実施した。「誰もが暮らしやすいまちを実現するために」をテーマに、屋内外で車いす体験やアイマスク体験、当事者講師から研修生全員に向けての講演やディスカッションの時間を設けた内容を実施した。

協力：ＮＰＯ法人世田谷区視力障害者福祉協会、ＮＰＯ法人世田谷区聴覚障害者協会

④世田谷区「せたがや学生ボランティアネットワーク」運営支援

世田谷区市民活動推進課と協働で、「せたがや学生ボランティアネットワーク」に参加している学生団体のニーズに応じ、ボランティア活動のコーディネートを継続して行い、ネットワーク会議の開催や「せたがや学生ボランティアフォーラム」の運営を支援した。

【ネットワーク参加団体】

大学	団体名
国士舘大学	児童教育研究会
駒澤大学	駒沢大学ボランティアサークル、駒澤大学学生赤十字奉仕団
昭和女子大学	昭和女子大学 ENVO
日本大学文理学部	日本大学文理学部学生国際ボランティアグループ Salamat “A”、児童文化研究会
明治大学	きずな International、心身障害者福祉会しいの実、ぱれっと、チャリティーサンタ世田谷明治大学支部

⑤インターンシップの受け入れ

大学の依頼によりインターンシップとして学生の受け入れを行い、協会の多様な地域事業を学んでいただく機会とした。

（3）今後の課題

団体相互の関係づくりはコロナ禍にはオンラインによらざるを得なかったが、徐々にリアルでも可能になってきたことを背景に、中間支援組織としての協会の強みを生かし、ボランティア団体、ＮＰＯと行政・関係機関や企業等とのパートナーシップを図る必要がある。

8　せたがや災害ボランティアセンター事業

（1）事業方針

災害ボランティア活動に関わるコーディネーター養成など、幅広い人材の登録、育成を進める。世田谷区のまちづくりセンターや避難所運営組織等との連携をさらに強化するとともに、区民への積極的情報提供を図る。災害時にマッチングセンターとサテライトが連携して活動するためのサテライト運営マニュアルの制作に取り組む。

（2）取り組みと進捗・活動状況

コロナウイルス感染症の影響で２年間、養成講座を開催することができなかったが、年度が変わって各大学の対応も変化し、2022 年度 6 月より再開した。また、避難所運営委員会や避難所運営訓練も再開され、地域ごとに担当を立て職員も参加した。

①災害ボランティアコーディネーター養成講座

大学での基礎編の開催は３年ぶりとなったため、各校担当者と協議し一般参加は事前登録制とし、手指消毒や座席の間隔調整など感染症対策の徹底を図った。

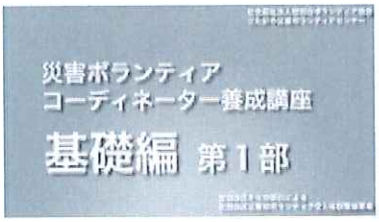
参加者を広く募るために広報を強化し、チラシを５総合支所やまちづくりセンター、区内大学など各所で配架した。またサテライト模擬訓練を試験的に導入するなど講座内容も見直しを図った。玉川生涯学習セミナーでは「もし、災害にあったら『在宅避難とボランティア』をテーマに講演した。

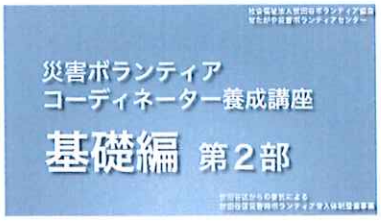
【基礎編（オンライン講座）の内容】

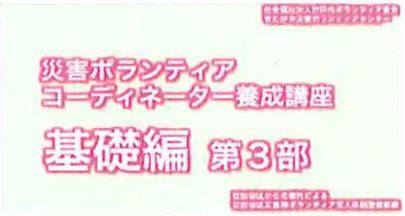
（第１部）世田谷区の被害想定と震災対策　　（約 6 分 30 秒）

（第２部）世田谷区の災害ボランティア受入体制（約 14 分 30 秒）

（第３部）コーディネーターの活動　　（約 16 分）







②防災シンポジウム

「子どもたちと災害」をテーマに2023年1月14日(土)に成城ホールで開催し、災害時の子どもの環境変化と課題について、専門家の方々と考える機会とした。(参加者数　108名)

(第1部) 基調講演 (本田涼子氏／神林俊一氏／津田知子氏)

(第2部) パネルディスカッション (進行：横山康博 せたがや災害ボランティアセンター長)

③マッチングシステムの理解促進

各地区で実施される避難所運営訓練等に参加し、災害ボランティアのマッチングの仕組みを説明し防災講話等を行うなど、町会・自治会やまちづくりセンター等との連携を図った。

(2022年度実績)

・避難所運営委員会協力　10件

・避難所運営訓練　　14件

・防災講話(防災塾等)　18件

・町会・自治会、区・まちづくりセンター、地区社会福祉協議会、民生・児童委員等との打合せ等

④災害ボランティア学習事業

区内の高校等と連携して防災教育を推進し、災害ボランティア活動への理解を深めた。

⑤ワーキングチームの開催

災害ボランティアセンターが取り組むべき課題ごとに検討するワーキングチームを組み、検討を進めた。

・サテライト運営マニュアル制作ワーキングチーム

コーディネーターがサテライトを運営するために必要な情報をわかりやすく解説するマニュアルを制作すべく、2021年7月から継続して検討を進めている。

(2022年度開催実績)

4月23日、6月1日、7月8日、7月28日、8月24日、9月29日、10月21日、12月7日、2月2日、3月24日　10回開催

・水害時における避難行動要支援者へのボランティア活動プロジェクトチーム

水害時に避難場所における要配慮者の対応について、区の要請に基づき検討を開始した。

(2022年度開催実績)

6月22日、6月29日、8月25日、9月28日、10月20日、12月2日　6回開催

現地調査10月26日 (総合運動場 陸上競技場)

⑥広域連携・広域支援

災害支援に取り組む様々な団体とのネットワークによる相互の情報交換と支援活動を行った。

・東京都社会福祉協議会城南ブロック災害担当者会議

災害時のブロック単位での連携を目的として開催される会議に参加した。

2022年度は主に東京都総合防災訓練に関する情報交換を行った。

(2022年度参加実績)

5月26日、6月8日、7月6日、7月14日、7月22日、8月10日、9月1日、3月10日

・東京都総合防災訓練

9月3日に品川区で開催され、城南ブロック (世田谷、品川、目黒、大田、渋谷区) として協力することとし、品川区での防災まちあるきを支援するとともに、林試の森公園において、2019年度の水害を振り返った災害ボランティアに関する展示を、世田谷区社協、大田区社協、グッドネーバーズジャパン、東京ボランティア・市民活動センターと共に行った。

・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（ＪＶＯＡＤ）

全国の個人・団体会員が参加するネットワークの全国フォーラム（5 月 12, 13 日にオンラインで開催）に参加し、分科会形式で災害の対応について学ぶ機会となった。

・東日本大震災被災地交流支援活動（福島県川内村）

ボランティアを募集し、現地の方からの要望を受けて清掃等の活動を支援した。

(2022 年度活動実績)

①4 月 28～30 日　5 名　②7 月 2～3 日　6 名　③9 月 10～11 日　4 名

・令和 4 年台風 15 号被災地復旧・復興支援（静岡県静岡市）

ふじのくにＮＰＯ連携促進会議からの要請により現地調査を行い、静岡県清水区での復旧・復興支援を行った。

(2022 年度活動実績)

現地調査：①10 月 30～31 日　②11 月 28 日　③12 月 11 日

ボランティアワゴン運行、復旧・復興支援：

①12 月 11 日　7 名　②12 月 18 日　8 名　③1 月 8 日　6 名　④1 月 22 日　6 名

⑦その他～トルコ南東部地震における緊急支援募金活動への協力

2019 年の台風被害時に活動協力を受けた二子玉川郷土史会からの申し入れを受け、同会主催の街頭募金活動について運営指導と協力を行った（3 月 4 日(土)・5 日(日)二子玉川駅前)。

【活動参加】二子玉川郷土史会、地元町会関係者、協会関係者、ボーイスカウトなど　延 35 名

【募金額】　479,271 円、その他 7,929 円

全額を駐日トルコ共和国大使館、国境なき医師団 緊急チームに寄付

（3）今後の課題

世田谷区の避難所運営マニュアル見直しを契機に、区民等の災害対策への意識醸成を図るべく積極的情報提供を図るとともに、コロナ禍にあってもオンライン活用など様々な工夫により進めてきた災害ボランティア活動に関わる人材育成について、リアルの活動充実を図る必要がある。

災害時にマッチングセンターとサテライトが連携して活動するためのサテライト運営マニュアルをとりまとめ、その試行を通じてより実践的な内容にしていく必要がある。

9　せたがやチャイルドライン事業

（1）事業方針

1998 年の活動開始から 20 年以上を経て、活動が全国に展開した現在もなお子どもを取り巻く状況は厳しく、コロナ禍が子どもたちに及ぼす影響も大きい。こうした中、感染状況を踏まえながらも、電話とオンラインチャットの二つのツールによる活動を着実に継続する。安心して話ができる大人がいることを子どもたちに伝える活動も引き続き行っていく。

（2）取り組みと進捗・活動状況

18 歳までの子どもがかける子ども専用の電話「せたがやチャイルドライン」事業を実施した。

「せたがやチャイルドライン」運営委員会を中心に、体制の強化と運営の安定化を図った。

①子どものメッセージを聴く活動

・せたがやチャイルドラインの実施

水曜日と土曜日の 16 時～21 時に、専用回線の有料ダイヤル（03-3412-4747）とフリーダイヤル（0120-99-7777）の 2 回線で、ボランティア（受け手）が子どもからの電話を受けた。

2020 年 9 月からオンラインチャットでも子どもの声を受けとめる活動も開始し、月 2～3 回程度実施した。

・受け手・支え手「全員集合交流会」の実施

受け手、支え手、運営委員の「全員集合交流会」をZoomと集合のハイブリッド形式で実施し、相互の交流や情報交換を行った。

・広報紙「ちゃ～ら」の発行、カードの配布

「せたがやチャイルドライン」の存在を子どもたちに伝えるため、せたがやチャイルドラインオリジナルで作成した広報紙「ちゃ～ら」とカード（約10万部）を、区立小中学校90校、国立・私立の小中学校・高校、ほっとスクール、フリースクールを通して、新学期や夏休み前のタイミングに合わせて配布した。

②参加の輪を広げる活動

・リーフレットやニュースレターの発行・配布

せたがやチャイルドラインの活動を紹介するためのリーフレットを年度更新するとともに、ニュースレターを年2回作成、発行し、イベント参加等の際に配布して活動を紹介した。

・せたがやチャイルドライン応援団活動

ニュースレターを通じて寄付の呼びかけを行い、寄付者の拡大を図った。

1万円以上の寄付者には手づくり品、3万円以上の寄付者には講義集、5万円以上の寄付者には手作り品セットを返礼品としてお送りした。

・チャイルドラインサポーター活動の推進

ものづくりや値付け、発送作業などさまざまなボランティア活動への参加の機会をつくり、電話の受け手以外にも、チャイルドラインを応援する活動を推進した。

（2022年度実績）ものづくりボランティア　4グループ、個人5名

③人材養成と研究活動

・受け手養成公開講座

せたがやチャイルドラインの受け手ボランティアの養成を図るために全8回開催した。

公開講座とすることで、チャイルドラインの活動を広く周知し、将来の受け手候補やチャイルドライン活動の新規ボランティア増やす機会とした。

感染防止対策と参加者拡大の観点から講座の参加をオンラインとし、講座の申込みや情報発信もホームページを通じて行った。

（講座の内容）

受け手ボランティアを始めるにあたって必要な子どもに関する知識や心構えと姿勢

（第26期(2022年度)実績）参加者数　46名

・受け手養成専修講座

公開講座を全て受講した人を対象に、より具体的に学ぶための講座を開催した。（8回開催）

・受け手継続研修

受け手のスキルアップのため、月1回継続研修を実施した。（11回実施）

実施日：4月16日、5月28日、6月25日、7月30日、9月25日、10月30日、11月20日、12月17日、3月4日

・インターン研修

受け手研修を修了し、受け手インターンとして登録した方を対象に月1回研修を実施した。（11回実施）

実施日：4月24日、5月29日、6月19日、7月31日、9月25日、10月30日、11月20日、12月17日、1月14日

④ネットワーキング活動

・全国のチャイルドラインとの協働

認定ＮＰＯ法人チャイルドライン支援センターの全国運営者会議やエリア会議、エリア研修に参加し、「せたがやチャイルドライン」の活動及び情報発信を行うとともに、全国各地のチャイルドラインとの情報交換を図った（5 月 30 日 オンライン）。

・チャイルドライン東京ネットワークへの参画

都内でチャイルドラインの活動を行う各団体との会議へ参加した（5 月 14 日 オンライン）。

⑤組織の運営

・運営委員会を月に１回開催し、「せたがやチャイルドライン」の運営等について協議した。

【せたがやチャイルドライン運営委員】　（敬称略）

田野浩美(委員長)、窪松恵美子(副委員長)、星野弥生、山本多賀子、中村智子、佐々木真由美

・支え手会議を月に１回開催し、受け手へのサポートについて協議した。

⑥企画・販売活動

・チャイルドラインショップの運営

世田谷美術館、世田谷文学館、世田谷パブリックシアターにおいて、ものづくりボランティアによる手作り品を販売した。また、売り上げの一部を寄付していただいている福岡県八女市の物産品を販売するコーナーをボランティアセンターに設けている。

・各種イベントへのバザー出店

おたがいさまフェスタ(4 月)、烏山もったいないバザール(5 月)、区民まつり(8 月)等のイベントに出店し、「せたがやチャイルドライン」の活動の周知啓発を図るとともに、事業資金の確保を図った。

（３）今後の課題

コロナ禍により子どもたちの活動が大きく制約されたことによる影響は、様々な活動が再開に動いている今もなお大きい。こうした状況にあって、引き続き電話とオンラインチャットの二つのツールによる活動を着実に継続する必要がある。

１０　ボランティアビューローの事業

（１）事業方針

各地域のニーズに即した地域ボランティアの拠点施設を区内４か所で運営し、ボランティアコーディネート、ボランティア学習、ボランティア情報ネットワーク、地域連携等の事業を展開する。

（２）取り組みと進捗・活動状況

より地域に密着したボランティア拠点として、地域の人たちが出会い、ふれあい、学びあう、暮らしに根ざした特色ある事業を行った。

①ビューロー共通の取り組み

・ボランティア・ＮＰＯ相談

・ボランティア情報ネットワーク事業（「ビューローだより」「ボランティアだより」の発行）

・ボランティア学習事業（ナツボラ・ジュニア事業の実施）

②梅丘ボランティアビューロー事業

i)ボランティアコーディネート事業

・梅丘てしごとカフェ

地域の人たちに特技や興味を活かしたボランティア活動への参加の場を提供した。参加者のアイデアやデザインでバッグや布小物等のオリジナルグッズを作成した(月2回実施)。

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
参加者数	11名	20名	20名	24名
販売額	13,400円	8,400円	11,100円	91,400円

・はじめカフェ(ボランティアオリエンテーション)

幅広い年代のボランティア初心者などを対象とし、ボランティアに一歩踏み出す機会を作る機会を提供した。参加者数が少なかった分ゆっくりと話ができ、具体的な話が聞けてよかったと感想をいただいた(参加者数3名)。

・失語症カフェ

失語症への認知度を高めるため、当事者やご家族、失語症会話パートナー(ボランティア)が集う「失語症カフェ」を実施している。時節柄飲食ができない制約のため「ミニ講座」あるいは「相談」として実施した(奇数月に実施)。

【実施日・各回の参加者数】

5月21日6名、7月16日4名、9月17日5名、11月19日3名、1月21日7名

計5回実施

【種別毎の参加者数(延べ人数)】

当事者9名、失語症会話パートナー13名、家族4名参加

・サポートを求めている子どもに寄り添うボランティア養成講座

例年玉川ビューローで行っている講座を梅丘ビューローにて世田谷区と共催で実施した。各地域より16名が参加し「子どもの特性や成長に寄り添いながらサポートできるボランティア」を目標に、講義や体験学習、話し合いも交えながら学んだ。

実施日	主な内容	協力者
6月23日	・子どもとかかわるときに	世田谷区教育相談・支援課教育相談専門指導員　森田規子氏
6月30日	・知的障がい児への理解を深める疑似体験とおはなし ・世田谷区の障がい児支援について	「世田谷区手をつなぐ親の会」安心ネットせたがや 世田谷区障害保健福祉課 髙野岳誌氏
7月7日	・発達障がいとは ・ボランティア活動経験者のおはなし	世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」　田中良果氏 ボランティア経験者2名

ii)地域連携促進事業

・梅・夢フェスタフリーマーケット

てしごとカフェ、うめのや、洋裁・和布・小物手作り、AmiAmie、Ami編の5グループ出店。今回よりせたpayでの出店料支払いに対応。各グループ楽しく地域の方々と交流し手作り品が販売できて楽しかった、との声があった(3月12日実施)。

・年度末大掃除

スタッフとボランティアが一緒に掃除を行い、ボランティア活動グループ同士の親睦を深めるために開催する(2022年度はボランティア交流会中心としたため中止)。

・ボランティア交流会

ボランティア活動グループ相互の情報交換を行うとともに、ビューロー統合について説明、バザーに代えて行う「手作り市」への協力を求めた。

(10月1日実施 3グループ参加、3月4日実施 15グループ参加)。

・ボランティア交流会（経堂あんしんすこやかセンター主催）

直近のボランティア・ニーズに関する説明を行った(1月30日　宮坂区民センター)。

・梅丘地区見守りネットの会

地域支えあい講座に参加した(3月3日　梅丘パークホール)。

ⅲ）コミュニティ・ビジネス事業

・うめのや（常設バザー）

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
販売額	1,400円	4,650円	2,800円	3,200円

・梅丘ボランティアビューローバザーの開催

代田ボランティアビューローと統合のためバザーに代えて、両ビューローで活動している手作りグループ(梅丘、代田の計4グループと常設バザーうめのや)による「手づくり市」を実施した（11月12日　販売額：てしごと35,600円、うめのや4,600円)。

参加グループから、作品を知ってもらい、売上があったことは、今後のやりがいにつながったとの感想があった。

③代田ボランティアビューロー事業

ⅰ）ボランティアコーディネート事業

・代田ビューロー　ご近所カフェ　～「こんにちは」を始めませんか～

気軽に館内に入ってもらえるオープンスペースを毎月第3土曜日午後に設け、月替わりのお楽しみ企画を実施し、地域の方々の憩いの場を目指した(3月は梅丘ボランティアビューローを会場に実施)。

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
参加者数	21名	6名	―	11名

・ぷらっと代田

気軽に立ち寄れる地域の居場所にしてもらえるよう、使用済み切手の整理というちょっとしたボランティア活動が出入り自由でできる場を設けた（感染防止のため事前申込制に変更)。

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
参加者数	2名	4名	5名	―

ⅱ）コミュニティ・ビジネス事業

・ふれあいバザール「フルール」（常設バザー）

バザー提供品の有効活用と事業活動資金確保を目的に実施した。立ち寄った方との会話から、イベントへの参加やボランティア相談など、つながりが深まることもあった。

月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
販売額	48,070円	48,000円	15,100円	―

・代田ボランティアビューローバザー

リユースの推進と、ボランティア希望者の受け皿や地域のボランティア活動の機会を広げ　るためのバザーを実施した（感染防止のため1ブロック40分定員12名の事前申込制に変更)

(11月25、26日　販売額：201,898円)。

来場者数：延べ103名／ボランティア：延べ78名（値付けV延べ61名、当日V延べ17名)

④玉川ボランティアビューロー事業

ｉ）ボランティアコーディネート事業

・傾聴ボランティア講座

地域の傾聴ニーズに応えるため、傾聴ボランティア養成講座を開催した(毎週水曜 全5回)。

実施日	内　　容	参加者数
6月 8 日	「出あう」	14名
6月15日	「ふれあう・言葉/態度」	13名
6月22日	「気持ちを知る」	13名
7月 7 日	「価値観の違い」	13名
7月13日	「傾聴ボランティアとは」	13名
計	5回	66名

・傾聴ボランティア学習会

傾聴ボランティア活動のフォローとして、近況報告し合い、活動中の悩みや相談などを共有する場を設けた（奇数月の第4水曜日)。

実施日	内　　容	参加者数
5月25日	近況報告、対面以外(電話)での傾聴の姿勢、ワーク	5名
7月27日	傾聴オリエンテーション、ワーク、先輩の話	17名
9月28日	高齢者の特徴と認知症の理解について学ぶ	10名
12月 7日	事例検討	10名
計	4回	42名

・傾聴ボランティア交流会

傾聴ボランティア講座に参加後活動されている方、活動準備中の方の出会いの場として、交流会を開催した(年1回)。

(2022年度実績)

3月22日　テーマ「災害時における傾聴活動の経験」講師：渡邊珠人(せたがや災害ボランティアセンター)　参加者17名、スタッフ8名

・発達講座

世田谷区と共催で、「大人の発達障がいのある方とかかわるボランティア養成講座」を実施した（全3回)。発達障害の基礎を学び、当事者や活動者の話を聞くことで、自身のボランティア活動のイメージを抱く機会を提供し、発達障害のある方のニーズに沿った活動の促進を図った。参加者は当事者やそのご家族が多く、個別の相談にも対応した。

実施日	内容	協力者
11月18日	・ボランティアについて ・発達障害について	NPO 法人東京都自閉症協会 副理事長 尾崎ミオ氏
11月25日	・世田谷区の障害のとらえ方と取り組み ・当事者の話	世田谷区障害保健福祉課 高野岳誌氏、当事者2名
12月 2日	・ボランティア活動経験者の話 ・参加者意見交換	ボランティア経験者6名

・発達講座フォローアップ

発達講座修了者を対象に、発達障害の理解をより深め、ボランティア活動につながるようサポートするとともに、既に活動を行っている人も含めて学習会を実施し、知識や情報を得るだけでなく、横のつながりがモチベーションになるよう促す機会とした。

実施日	内容	協力者	参加者数
2月3日	発達学習会 「発達障害の支援って？」	みつけばハウス 尾崎氏、神宮氏	19名

3月3日	2022年度講座修了者対象ワーク		5名

アンケートで「寄り添うことの大切さ、インフォーマルな支援の大切さという言葉に喜びを感じた」「普段の活動でもやもやしていたところが改善された」などの感想が寄せられた。

・大人の発達オンラインカフェ「かたりば」

2020・2021年度の発達講座修了者がボランティアスタッフとして参加し、発達障害のある方やご家族とオンラインで交流する場を設けた。2022年度は毎月第3金曜日午後に実施。ボランティアがファシリテーターを担い、当初から参加の当事者に新たな参加者を交えて穏やかな交流の場を運営した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ゲスト	8	7	6	5	4	6	6	4	4	8	7	7	72名
ボランティア	14	3	3	5	4	3	5	6	6	5	8	4	66名

参加者からは、普段話せないことを話せた、話をすることで落ち着いた、場の雰囲気に癒されたなどの感想が聞かれた。

・発達障害・障害児サポート情報共有会（年２回）

発達障害と障害児のサポートにかかわる区の担当者、講師、国士舘大学の教員とともに、事業の企画とふりかえり、それぞれの立場の現状報告、情報交換や意見交換をおこない、協力体制をとりながらボランティアの養成と地域のニーズ対応に取り組んでいる。

前期は9月9日、後期は3月2日に実施。発達障害就労支援施設職員、発達障害療育支援センター職員も参加し、新たなヒントやつながりを生む、互いにとって有用な情報共有、協会事業についての確認と相談の場となった。

・遊ぼう会

地域のお子さんがボランティアをまじえて遊ぶ会を、ボランティアグループ『ういきゃん』と共催で企画・実施した(月1回)。

支援の必要な子とご家族に積極的に案内し、障害児(者)や保護者の居場所、ボランティアにとっては障害児(者)とかかわるきっかけやスキルアップの機会になった。

実施日	内容	参加者	ボランティア
4月16日	二子玉川公園でネイチャービンゴ	8名	14名
5月21日	室内遊び(天候不良のため公園遊びから変更)	5名	9名
6月18日	オンライン遊ぼう会	5名	4名
7月16日	臨床美術「糸りん	7名	8名
8月27日	夏まつり	20名	12名
9月17日	室内レク	4名	4名
10月15日	二子玉川公園	9名	16名
11月19日	室内レク	6名	10名
12月17日	クリスマス会	13名	12名
1月21日	二子玉川公園でお正月遊び	6名	4名
2月18日	子どもヘアメイクとレクリエーション	6名	9名
3月18日	プラレールで遊ぼう＆ヘアアレンジ	29名	14名
計	12回	118名	116名

・障害についての勉強会

国士舘大学刑事学研究会との共催で、これから社会で活躍する大学生が障害について「考え・知る機会」として「地域でボランティアをやってみよう！」を開催した(6年目)。公務員志望の学生が多いことから、公務員の仕事現場から、また保護者の立場からも伝え、将来の仕事に役立つよう工夫した。(6月9日 参加者約50名　10月13日 参加者約20名)

・チーム子どもサポート

子どもへの個別支援ニーズに対応するボランティアの育成を目的に、勉強会の実施や活動　のフォロー、関連機関との関係づくりを、若者編（30才未満）「チーム子どもサポート」とシニア編（年齢制限なし）「子どもサポート　フォローの会」に分けて実施した。

若者編では、いじめや虐待による不登校や発達障害のある子どもとかかわる依頼も増えているため、難しい対応を求められることのある若者を支えるために、何でも話せる場や必要な学びの場を提供し、シニア編では「サポートを求めている子どもに寄り添うボランティア養成講座」修了者のフォローアップを行った。ボランティアからの相談には随時対応した。

	4−6月	7−9月	10−12月	1−3月	計
若者編	6名	1名	3名	3名	13名
シニア編	7名	6名	7名	4名	24名

・ボラカフェ

ボランティア活動に興味はあるが、なかなか一歩が踏み出せない人や、地域と関わる機会がほしい人のために居場所を提供した。作ったものは、ビューローの常設バザーで販売。

	4−6月	7−9月	10−12月	1−3月	計
参加者数	15名＊	11名	12名	27名	65名
販売額	17,611円	6,250円	18,650円	8,050円	50,561円

＊参加者数に見学者1名を含む

・昭和を語る男の会

男性の孤独死が増えているなどに対するの地域の要望に応えて、男性の居場所として開催する。昭和を切り口に参加者からでたテーマをもとに、参加者同士が話し合う。

実施日　4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、9月30日、1月27日、3月24日

参加者　60代15名、70代25名、80代8名、90代7名　合計55名

ⅱ）地域連携促進事業

・玉川ビューロー利用者交流会

玉川ビューローを利用するボランティアグループ、個人ボランティア、利用者等ビューローにかかわる人たちの相互理解を深め、刺激を受け合い、支え合いの輪を広げることを目的に開催した。計画段階で感染対策や参加者要望を考慮して初のオンライン（Zoom）開催とした（希望者には事前にZoom講習）。オンライン開催を初めて経験した参加者からも好評で、目標（20名）を上回る参加があり、良い交流の場となった。（3月29日開催、参加者数26名）

・コミュニティ・ビジネス事業（玉川ボランティアビューローバザー）

地域の資源再利用を進めながら、ボランティア活動のきっかけ、様々なボランティア希望者の受け皿となる事業。感染防止の観点から規模を縮小し、事前予約制（1枠40分、定員30名）として3年ぶりに開催した。バザー品の残りを販売することで地域資源の再利用、普段ビューローに来ることのない人の来所するきっかけとした。

（2022年度実績）

・バザー：2月25日開催　来場者数78名、ボランティア延べ66名　販売金額 195,950円

・バザー品後売り：期間：2月27日〜3月25日　販売金額103,650円

⑤砧ボランティアビューロー準備室事業

2020年6月22日に「砧ボランティアビューロー準備室」を開設し2年が経過した。

会議室・集会室を持たないが、相談拠点として砧地域のボランティア活動推進にあたった。

ⅰ）ボランティアコーディネート事業

・傾聴ボランティア講座

①地域の傾聴ニーズに応えるため、砧・烏山地域で傾聴ボランティアの養成講座を開催した（全５回）。

内　　容	実施日・参加者数	
	烏山地域	砧地域
「出あう」	９月 20 日　13 名	１月 24 日　15 名
「ふれあう・言葉/態度」	９月 27 日　14 名	１月 31 日　14 名
「気持ちを知る」	10 月 4 日　12 名	２月 7 日　13 名
「価値観の違い」	10 月 18 日　14 名	２月 21 日　13 名
「傾聴ボランティアとは」	10 月 25 日　14 名	２月 28 日　14 名

・傾聴ボランティア学習会の実施

傾聴ボランティア入門講座、ステップアップ講座を修了し、傾聴ボランティア活動を希望する方へのフォローアップと支え合い、情報交換の場として１～２ヶ月に１回実施した（緊急事態宣言により中止した５月は、参加予定者に連絡をとって話を聴き、労いの時間とした）。

（2022 年度実績）

実施日　５月 18 日、９月 21 日、11 月 13 日、12 月 13 日、１月 18 日、２月 14 日、３月７日

場所　　成城まちづくりセンター活動フロア、社会福祉協議会研修室、梅丘ボランティアビューロー

・傾聴出前講座の実施

地域の団体やグループの要請に応じて職員を派遣した（職員各２名派遣）。

実施日	派遣先	内容
10 月８日	ひきこもり地域家族会　世田谷はなみづきの会	「傾聴について」
12 月８日	世田谷区精神障害者ピアサポート研修 ぽーとからすやま	「傾聴について」
２月 18 日	せたがや生涯現役ネットワーク（シニアの社会参加のしくみつくりプロジェクト実行委員会烏山グループ）	「暮らしの中の『傾聴』」

・おしゃべりサロン「きぬたまり」

（2022 年度実績）

実施日　４月 13 日、５月 11 日、６月９日、７月 13 日、８月 10 日、９月 14 日、11 月９日
12 月 14 日、１月 11 日、２月８日、３月８日（水曜午後）

場所　　成城まちづくりセンター活動フロア

ii）ボランティア学習事業・地域イベント・会合への参加

・ボランティア交流会の実施

ボランティアを募集している高齢者施設やＮＰＯ法人の方の話、ボランティア体験者による話（視覚障害のある方の散歩同行、学習支援、傾聴、高齢者の居場所の運営ボランティア）の話を聞き、交流を行った。

実施日　３月 14 日／参加者数　　19 名

場所　　烏山区民センター集会室

・ご近所フォーラム実行委員会への参加

参加日　４月 26 日、５月 31 日、６月 30 日、８月 29 日、９月 26 日、12 月 26 日、
１月 23 日、２月 27 日、３月 24 日（いずれもオンライン）

ご近所フォーラム開催日　３月 18 日　場所　成城ホール

・砧地域ケア連絡会への参加

参加日　５月 18 日、６月 15 日、７月 20 日、９月 21 日、10 月 19 日、11 月 16 日、
12 月 21 日、１月 18 日、２月 15 日、３月 15 日　場所　砧総合支所

・地区版地域ケア会議

成城地区　　7月19日　成城まちづくりセンター活動フロア
祖師谷地区　8月17日　オンライン
砧地区　　12月16日　砧まちづくりセンター
砧地区見守り交流会　12月16日　砧まちづくりセンター

・つなぐ烏山

運営委員会　6月24日、1月20日　烏山総合支所
烏山交流・名刺交換会　9月6日　烏山区民会館ホール

・その他

上北沢地区～支え合う地区づくり～　2月22日　上北沢区民センター
希望丘青少年交流センター「アップス」交流会　2月28日　アップス
生涯現役フェア　3月11日　烏山区民会館・烏山区民センター前広場

（3）今後の課題

区内5地域に活動拠点が整備されたことを活かし、それぞれの地域に根ざしてボランティア団体、ＮＰＯ等との連携と交流、情報発信や場の提供等を推進していくことが重要である。

コロナ禍を経て様々な地域活動が再開されていることを背景に、感染症対策の観点から休止あるいは縮小していた事業を徐々に再開していく必要がある。

＊ボランティア・市民活動推進部の実績データについては以降に掲載

ボランティア相談 面談受付件数

①世田谷ボランティアセンター

月	ボランティアしたい	ボランティア求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習協力	その他		
4-6	20	10	0	1	1	3	5	35
7-9	15	4	2	0	0	1	3	22
10-12	12	6	1	0	0	3	4	24
1-3	22	12	4	0	0	1	5	39
計	69	32	7	1	1	8	17	118

②梅丘ボランティアビューロー

月	ボランティアしたい	ボランティア求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習協力	その他		
4-6	22	11	13	6	7	0	26	59
7-9	29	2	14	3	2	0	19	50
10-12	7	7	18	2	2	0	22	36
1-3	10	7	7	15	0	0	22	39
計	68	27	47	73	11	0	89	184

③代田ボランティアビューロー

月	ボランティアしたい	ボランティア求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習協力	その他		
4-6	17	2	1	0	0	1	2	21
7-9	1	1	3	1	0	3	7	9
10-12	26	0	0	0	0	0	0	26
計	44	3	4	1	0	4	9	56

④玉川ボランティアビューロー

月	ボランティアしたい	ボランティア求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習協力	その他		
4-6	17	9	4	0	0	3	7	33
7-9	26	11	1	1	0	0	2	39
10-12	38	19	1	0	0	1	2	59
1-3	178	49	11	0	0	0	11	238
計	259	88	17	1	0	4	22	369

⑤砧ボランティアビューロー準備室

月	ボランティアしたい	ボランティア求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習協力	その他		
4-6	23	21	19	0	0	6	25	69
7-9	30	16	27	1	1	0	29	75
10－12	18	17	11	2	2	5	20	55
1-3	23	13	10	1	0	6	17	53
計	94	67	67	4	3	11	91	252

ＮＰＯ・市民活動相談件数

【団体種類別件数】

月	任意団体	ＮＰＯ法人	その他	個人	合計
4-6	21	34	0	7	62
7-9	13	4	0	12	29
10-12	12	5	0	4	21
1-3	11	3	1	5	20
計	57	46	1	28	132

【相談内容種別件数】

一般相談

月	任意団体の立ち上げ・運営	ＮＰＯ法人の設立	ＮＰＯ法人の運営	認定ＮＰＯ	合計
4-6	23	3	13	2	41
7-9	26	0	0	0	26
10-12	10	6	3	0	19
1-3	13	0	3	0	16
計	72	9	19	2	102

専門相談

月	運営問合せ（法務）	運営問合せ（会計・税務）	運営問合せ（労務）	運営実務（法務）	運営実務（会計・税務）	運営実務（労務）	合計
4-6	3	8	3	2	4	1	21
7-9	0	0	1	0	0	2	3
10-12	0	1	0	0	1	0	2
1-3	0	2	1	0	1	0	4
計	3	11	5	2	6	3	30

ＷＥＢ媒体による情報発信実績

【ホームページ】

月	投稿数		閲覧数		
	2022 年度	前年度	2022 年度	前年度	前年比
4-6	60	42	123, 258	92, 920	33%増
7-9	54	59	109, 517	99, 557	10%増
10-12	82	72	87, 936	93, 531	6%減
1-3	68	54	105, 976	86, 345	23%増
計	264	227	426, 687	372, 353	15%増

【Facebook】

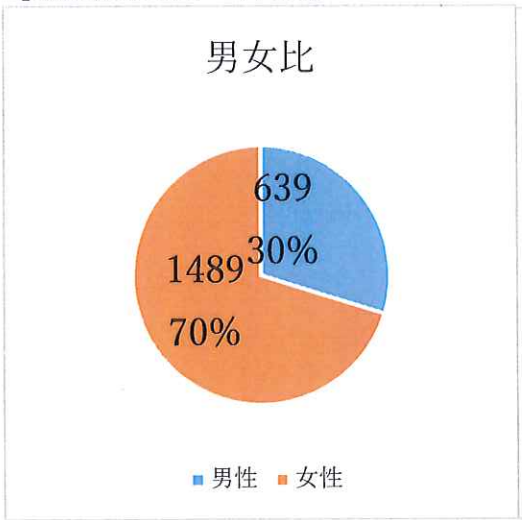
時点	いいね数		閲覧数			
	ボランティア協会	災害ボランティアセンター	ボランティア協会		災害ボランティアセンター	
			2022 年度	前年度	2022 年度	前年度
6 月 30 日	1, 849	819	3, 844	5, 610	324	1, 011
9 月 30 日	1, 861	820	2, 472	4, 804	854	148
12 月 31 日	1, 877	815	2, 535	1, 799	342	397
3 月 31 日	1, 875	814	1, 526	1, 249	337	522

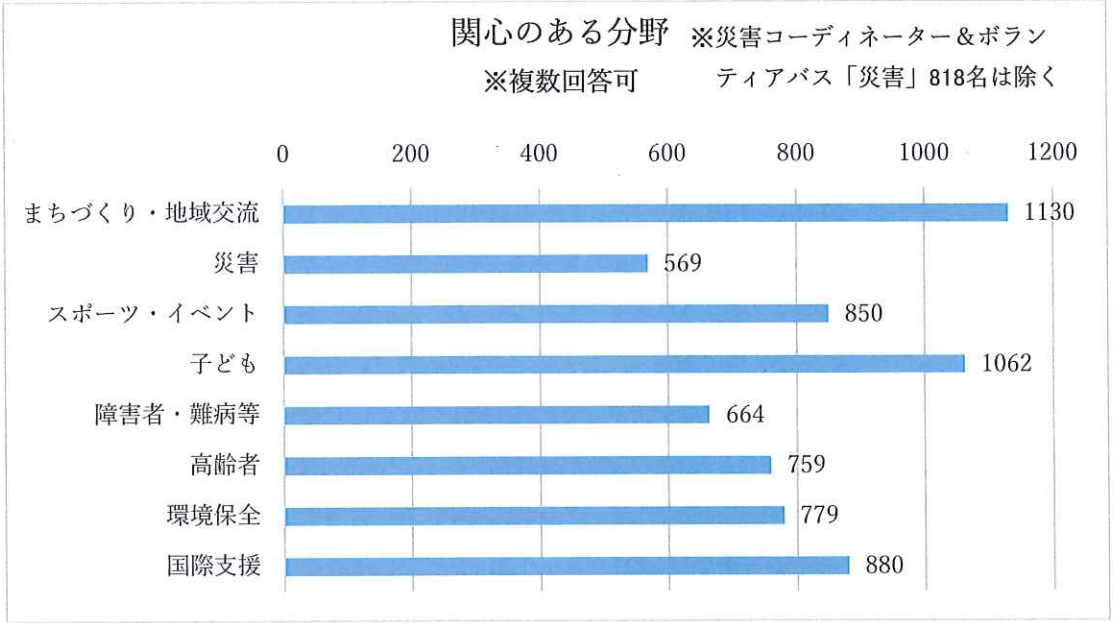
ボランティア情報サイト「おたがいさまbank」を活用した情報提供実績

【新規登録者数】

月	新規登録者数	メールマガジン発行状況　＊は臨時便
4-6	88名	4月2日、17日＊、5月7日、 25日＊、6月7日
7-9	124	7月9日、8月4日、9月2日、 7日＊
10-12	81	10月4日、10月15日＊、25日＊、11月4日、 12月3日、9日＊、16日＊
1-3	100	1月7日、20日＊、2月7日、 3月1日＊、11日
計	393	12回＋臨時便10回

【登録者男女比・年代比】　(2023年3月末時点)





AIシステムによるマッチングサイト（世田谷版GBER）実績

【年代別登録者数】計186名

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60～64	65～69	70代	80代	90代	不明
登録者数	13	23	23	41	47	8	12	14	0	0	5

【ボランティア募集案件及びマッチング件数】（募集記事掲載時点でカウント）

月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
募集案件数	2	2	5	3	6	12	8	4	14	63
マッチング件数	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3

総合学習・奉仕体験活動等コーディネート　授業協力実績

学校	日程・内容
東深沢小学校　4年生 3クラス　123名	10月7日（金）13:35～15:10 「車椅子ユーザーによる講話」 協力者：永田氏（元ふらっと利用者）
弦巻小学校　4年生 4クラス　124名	①12月6日（火）9:40～12:15 「車椅子体験授業」 協力団体：せたがや福祉・介護普及活動有志の会 福祉移送サービス株式会社パンプキン号 ②12月13日（火）13：45～15：20 車椅子ユーザーによる講話 協力者：永田氏（元ふらっと利用者）

＊表のほか、日本女子体育大学附属二階堂高校　1年生「ボランティア入門講座」
保健福祉（福祉・看護・保育）の授業選択者を対象に、ボランティアについて学ぶ授業を
4月に予定したが学校の都合により中止

夏のボランティア体験プログラム「ナツボラ」実績

	実施日	内　容
受付、オリエンテーション	7月17、21、22、26、27日	会場　：世田谷ボランティアセンター 参加者数：117名（延べ件数138名） 内訳　：中学生87名、高校生26名、大学生3名 その他1名
ボランティア体験活動	7月27日～8月31日	活動先　：35か所 （高齢者関係6か所、障害者関係10か所、 子ども関係16か所、その他3か所）

（参考）2019年度参加者数296名、参加延べ件数323名

小学生向けプログラム「ナツボラ・ジュニア」実績

拠点	参加者数	協力団体
世田谷ボランティアセンター	12名	ミニデイひなたぼっこ、下馬福祉工房、 手話サークル「輪の会」
梅丘ボランティアビューロー	20名	世田谷録音奉仕グループひびき、てんとうむし、 二八会、グルポ6（セイス）、リフォームメイキング和裁
代田ボランティアビューロー	23名	JCA千歳船橋代田クラス、世田谷区社会福祉協議会地区サポーターほか、代田川緑道保存の会
玉川ボランティアビューロー	16名	ふたこdeネット、あおぞら、二子おもちゃ図書館ぽっぽ、 峯苫禎尚さん（世田谷区視力障害者福祉協会）
砧ボランティアビューロー準備室	4名	特別養護老人ホーム砧ホーム

自主活動への支援

①世田谷ボランティアセンター　場の提供実績

※人数・団体は延べ人数・団体数

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	78 日	76 日	73 日	73 日	300 日
利用人数	2,366 名	1,888 名	2,619 名	2,538 名	9,411 名
利用団体	275 団体	203 団体	268 団体	250 団体	996 団体

世田谷ボランティアセンター機材の提供実績

器 材 名	件　数
プロジェクター	15 件
スクリーン	18 件

世田谷ボランティアセンター　イブニングプログラム実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
回数	12 回	13 回	11 回	11 回	53 名
参加者数	59 名	62 名	51 名	47 回	225 名

②梅丘ボランティアビューロー　場の提供実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	74 日	73 日	70 日	292 日
利用人数	816 名	590 名	1,082 名	1,893 名	7,946 名
利用団体	129 団体	110 団体	165 団体	243 団体	1,165 団体

③代田ボランティアビューロー　場の提供実績（2022 年 11 月 30 日閉館）

	4-6 月	7-9 月	10-11 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	74 日	49 日	－	197 日
利用人数	419 名	757 人	519 名	－	1,695 名
利用団体	42 団体	108 団体	67 団体	－	217 団体

④玉川ボランティアビューロー　場の提供実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	74 日	73 日	69 日	290 日
利用人数	1,746 名	1,388 名	1,812 名	1,619 名	6,274 名
利用団体	177 団体	145 団体	177 団体	151 団体	639 団体

⑤砧ボランティアビューロー準備室　開所実績

	4-6 月	7-9 月	10-12 月	1-3 月	合計
開所日数	74 日	74 日	73 日	69 日	290 日

※会議室スペースがないため、会議室利用実績はない。

他団体と連携した事業の開催、参加、出展（コミュニティビジネス事業含む）実績

事業名	日時・場所	内　容　　（＊来場者の反応）
「おたがいさま フェスタ 2022」	4月23日(水) ボランティアセンター駐車場	地域の方々に知っていただき、交流の場とするためケアセンターふらっと、下馬福祉工房とともに開催した。 ＊子どもたちの参加も多く、楽しんでいただくことができた
烏山もったいないバザール	5月15日（日） 烏山区民センター広場	その場で作る飲食は販売しないなどのコロナ対策をとりながら、16団体が参加した。 ＊例年より短時間の開催だったが、出展者、来場者に非常に喜んでいただけた
リサイクル市	5月26日(木) ボランティアセンター２階会議室	コロナ禍で人数制限のため予約制とし、入場前に検温と消毒を徹底し、売り場のスペースを縮小して開催した。
第43回 「せたがやふるさと区民まつり」	8月6日(土)、7日(日) 松陰神社	協会ＰＲ、スライムづくり、輪投げ、せたがやチャイルドラインの手作り品販売、福岡県八女市の物産品販売を行った。 ＊想定以上に子どもたちが集まり、夏のボランティア体験「ナツボラ」の参加者、飛び入り参加のボランティアも加わり、大盛況のうちに終えることができた
下馬２丁目北町会盆踊り大会	8月6日(土)、7日(日)	新型コロナウイルス感染拡大（第７波）のため中止
第47回 「雑居まつり」	10月9日（日） 羽根木公園	協会ＰＲ、輪投げ、バザー、せたがやチャイルドラインの手作り品販売、福岡県八女市の物産品販売を行った。
第６回 「ごきんじょ市」	11月20日(日) 三茶ふれあい広場	福祉事業部と協働して企画実行委員会に参加し、ごきんじょ市に関わるボランティアのコーディネートを実施するとともに、協会ＰＲ、輪投げで出店した。
「極楽フェス」	12月10日(土) ボランティアセンター駐車場、下馬２丁目都営アパート第１集会所	セボネ１月号の表紙イラストを参加者に描いていただいた。食器や子ども服のバザーを実施した。 ボランティア協会（ボランティアセンター、ふらっと、ぽーと）、下馬福祉作業所、あんしんすこやかセンター、フレンズ、優っくり村、下馬２丁目町会、パブリックシアターが出店・参加
「世田谷ボロ市」	12月15・16日 1月15・16日 ボロ市通り	左記日程のうち３日 バザー出展を行った。 ＊来場者から「久しぶりね」とお声がけいただいた
「梅まつり」	2月18日 羽根木公園	チャイルドライン、梅丘ボランティアビューローで出店し、協会ＰＲ、しごとカフェと編み物ボランティア提供の手作り品を販売した。 ＊過去にない多額の売上、３年ぶりでよい交流ができた

パートナーシップ事業

①世田谷区　採用１年目後期「障害福祉体験」研修　実施実績

期間　　：10月5日～11月2日（全8回）
研修生　：計231名　／　講師　　：障害当事者各回3名
職員体制：各回4名（合計8名）／会場　　：教育総合センター会議室　および　周辺の公道

②世田谷区「せたがや学生ボランティアフォーラム」運営支援実績

【ネットワーク会議及びフォーラム開催】

実施日	内容	学生参加者数
7月5日・6日	第1回ネットワーク会議	計9名(6名、3名)
8月17日	第2回ネットワーク会議	10名
10月17日・18日	第3回ネットワーク会議	計10名(6名、4名)
11月14日・15日	第4回ネットワーク会議	計7名(4名、3名)
11月29日・30日	フォーラム打合せ	計8名(4名、4名)
12月17日	せたがや学生ボランティアフォーラム	約30名
1月10日・25日	第5回ネットワーク会議	計10名(2名、8名)
3月15日	第6回ネットワーク会議	11名
計		95名(概数)

【学生団体の地域活動コーディネート】

活動名	学生団体	おもな活動内容
うめ・ゆめ子ども食堂	・きずな International（明治大学）	お子さま弁当の無料配布実施
うめ・ゆめふれあい塾	・きずな International（明治大学）	小学生対象の学習支援と遊びの活動実施
せたがや ASOBO	・児童教育研究会（国士館大学）	小学生と工作等で遊ぶ会実施
雑居まつり	・きずな International（明治大学）	世田谷ボランティア協会のブースにてバザーの準備・販売のボランティア活動実施。うめ・ゆめふれあい塾のチラシ配布
オリーブルーム	・駒澤大学学生赤十字奉仕団（駒澤大学） ・昭和女子大学 ENVO（昭和女子大学）	ゆっくり学ぶ子の学習支援活動実施
「ボランティアセミナー」授業協力	・きずな International（明治大学） ・しいの実（明治大学）	1年生112名対象の授業にて、世田谷ボランティア協会からボランティアについての講話後、活動の動機・内容・やりがいなどを紹介

③インターンシップの受け入れ実績

実施日	内容	日数	人数
8月4日～27日	産業能率大学　インターンシップ受け入れ	9日間	1名
10月28日～11月20日	神奈川大学　社会教育実習	8日間	1名

せたがや災害ボランティアセンター事業

①災害ボランティアコーディネーター養成講座開催実績

事業名	実施日	参加者数（視聴者）
基礎編・昭和女子大学	6月11日	120名
玉川生涯学習セミナー	9月6日	24名
基礎編・国士舘大学	9月10日	62名
基礎編・日本大学商学部	11月5日	40名
基礎編・日本女子体育大学	1月21日	59名
基礎編・日本体育大学	2月11日	47名
オンライン講座	4～6月	86名
オンライン講座	7～9月	143名
オンライン講座	10～12月	252名
オンライン講座	1～3月	100名
計	6回+オンライン	933名

②避難所運営委員会への協力実績

会場	内容	実施日	参加者数
砧中学校	委員会での講話	7月23日	28名
池尻小学校	委員会への参加	7月30日	26名
三軒茶屋小学校	委員会への参加	9月 2日	28名
中丸小学校	委員会への参加	9月 8日	25名
瀬田小・中学校	HUG勉強会	9月16日	30名
三宿小学校	委員会への参加	9月30日	29名
駒繋小学校	委員会への参加	9月30日	29名
旭小学校	委員会への参加	10月13日	38名
駒繋小学校	委員会への参加	2月25日	19名
緑丘中学校	委員会への参加	2月28日	34名
計		10回	286名

③避難所運営訓練実績

会場	内容	実施日	参加者数
駒繋西自治会	訓練	5月 5日	100名
烏山小学校	訓練	5月 8日	68名
芦花小中学校	訓練・防災フェス	6月18日	300名
烏山北小学校	訓練	6月26日	51名
中町小・玉川中学校	訓練	9月 1日	60名
烏山北小学校	訓練	9月 3日	51名
烏山中学校	訓練	9月10日	68名
三宿小学校	訓練	10月29日	59名
三宿中学校	訓練	11月26日	40名
松沢小学校	訓練・防災フェス	11月26日	107名
多聞小学校	訓練	12月10日	66名
駒沢小学校	訓練	2月18日	41名

池尻小学校	訓練	2月18日	85名
瀬田小学校	訓練	2月18日	50名
計		14回	1,146名

④防災講話(防災塾等) 実績

事業名	内容	実施日	参加者数
松原地区ぐるみ支えあう会	在宅避難	4月19日	23名
ライオンズクラブ三軒茶屋支部	災害ボランティア	5月24日	100名
松沢地区地区サポミニ講座	防災	5月24日	25名
「はちまんやま寺子屋」	在宅避難	6月18日	17名
桜町会防災塾	サテライト	6月24日	20名
陽杲会	防災	6月29日	15名
上町地区身近なまちづくり推進協議会	防災	7月23日	30名
上馬あんしんすこやかセンター	防災	9月16日	14名
九品仏地区防災座談会	サテライト	11月15日	15名
上町地区防災座談会	災害時トイレ	12月 3日	24名
烏山地区防災塾	在宅避難	12月10日	24名
代沢身近なまちづくり防災座談会	サテライト	1月10日	44名
代沢まちづくりセンター	在宅避難	2月16日	44名
等々力地区防災塾	在宅避難	2月 5日	55名
深沢地区防災塾	在宅避難	3月11日	30名
用賀地区防災塾	サテライト	3月18日	20名
太子堂区民センター	在宅避難	3月18日	22名
瀬田地区防災講話	ペット防災	3月23日	16名
計		18回	538名

⑤災害ボランティア学習事業実績

事業名	内容	実施日	参加者数
都立松原高校	HUG (避難所運営ゲーム)	7月13日	14名
国士舘大学　防災リーダー養成論実習	災害ボランティア活動	8月24日～ 計6回	398名
都立芦花高校防災講座	防災講話、マンホールトイレ組立訓練	10月19日	300名
二階堂高校防災講座	区の災害対応講義、防災まちあるき、マンホールトイレ組立訓練、グループワーク	12月16日	9名
計		4回	721名

せたがやチャイルドライン

①年間着信件数（電話）実績（過去3年度）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	161	251	313	171	332	307	270	213	179	288	177	210	2,872
2021	189	140	200	164	162	137	142	119	119	217	229	217	2,035
2020	17	58	100	245	198	211	259	175	148	277	164	86	1,938

②年間着信件数（オンラインチャット）実績（過去3年度）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022	26	15	12	15	13	22	6	10	9	6	9	24	167
2021	42	35	27	25	12	16	20	31	30	23	8	27	296
2020	－	－	－	－	－	19	14	9	13	19	11	9	94

③受け手・支え手「全員集合交流会」実施実績

実施日	内容	参加者数
4月16日	・自己紹介と近況報告 ・「コロナ禍で顕在化した子どもたちの生きづらさ・こどもの権利条約と社会情勢・新しい視点」 講師：金子由美子 NPO法人チャイルドライン支援センター理事	21名 （3名）
8月27日	・ワーク「コロナ禍の子どもたち」 講師：山本多賀子 せたがやチャイルドライン運営委員・支え手	18名 （6名）
12月17日	・ワーク「2021年度調査研修から見えてきたこと」 講師：寺出 壽美子 日本子どもソーシャルワーク協会理事長	11名

参加者数の（　）内：オンライン参加(内数)

④受け手養成公開講座実績

実施日	テーマ	講　師
5月21日	出会いのワーク	文屋　裕子 せたがやチャイルドライン支え手
5月21日	手にいれたい“まなざし” ～子どもの権利条約の具現化を目指して～	西野 博之 NPO法人フリースペースたまりば理事長
6月4日	ボランティアが支える せたがやチャイルドライン	田野　浩美 せたがやチャイルドライン運営委員長・支え手 吉原　清治 世田谷ボランティア協会職員
6月4日	思春期の性・男子の性 ～性のこと、話せますか？～	村瀬 幸浩 元一橋大学講師・日本思春期学会名誉会員
6月18日	子どものことばに、ふれてみる	田野　浩美 せたがやチャイルドライン運営委員長・支え手
6月18日	遊びのチカラ・子どもの“今”	天野 秀昭 NPO法人プレーパークせたがや理事
7月2日	いじめと不登校 ～経験者の立場から～	須永　祐慈 「ストップいじめ！ナビ」副代表理事
7月16日	より良いコミュニケーションをめざして ～コミュニケーションの体験～	山本　多賀子 せたがやチャイルドライン運営委員・支え手

⑤受け手養成専修講座実績

実施日	テーマ	講　師
9月 3日	「チャイルドラインとは」	田野　浩美 せたがやチャイルドライン運営委員長
9月 3日	「電話の特性と限界」	山本　多賀子 せたがやチャイルドライン運営委員・支え手
9月 17日	「五感で感じてみる」	峯﨑　のり子 せたがやチャイルドライン支え手
9月 17日	「子ども時代を味わい直す」	天野 秀昭 NPO法人プレーパークせたがや理事
10月 1日	「子ども時代に立ち返る」	峯﨑　のり子 せたがやチャイルドライン支え手
10月 1日	「子どもの声を聴くために①」	山本　多賀子 せたがやチャイルドライン運営委員・支え手
10月 15日	「子どもの声を聴くために②」	山本　多賀子 せたがやチャイルドライン運営委員・支え手
10月 15日	「チャイルドラインの受け手が目指すもの」	峯﨑　のり子 せたがやチャイルドライン支え手

職員体制

	常勤	臨時
部　長	1名(兼務)	
世田谷ボランテイアセンター	5名	4名（兼務2名）
せたがや災害ボランティアセンター（災害担当）	3名	2名（兼務1名）
梅丘ボランティアビューロー		4名
代田ボランティアビューロー		4名
玉川ボランティアビューロー		6名
砧ボランティアビューロー準備室		4名

＊事務局長が部長を兼務

職員研修

①内部研修の参加

事例検討会やボランティア相談対応に必要なスキルを学んだ。

②外部研修の参加

ボランティアコーディネーションに関する研修、災害ボランティアに関する研修、福祉制度やサービスに関する研修、そのほか地域の情報収集や関連機関との連携を図るため、関連機関の研修会などに参加した。

Ⅱ．福祉事業部

2022 年度も新型コロナウィルス感染症の感染対策を軸に置きながら事業展開を進めた。しかし、感染の波はおさまらず、7 月から 8 月にかけ利用者、職員も含め感染者が増え、限られた職員で事業を継続せざるを得ない状況ともなった。後期は感染者数も減ってきたが、感染対策は変えることなく、事業を継続しつつ新規利用希望も受け入れることができるよう取り組みを行った。結果、事業部全体延べ利用者 900 名の方を受け入れ、昨年の延べ利用者数 857 名に比べ 43 名の増となった。この数字は、事業部全体で取り組んできた感染対策だけではなく、事業の担い手である職員の日々の努力とボランティアを含めた地域の方々の支えのもとに成り立っていると感じる。

今年度、世田谷ボランティア協会福祉事業部の強みである「障害のある当事者、家族、福祉関係機関、ボランティア、商店街など多くの方とのつながり」「障害のある方とのかかわりを通し、積み重ねてきた学び」を生かし、積極的に新規利用希望者の受け入れを行ってきた。結果 319 名の方の新規利用につながっている。特に、高次脳機能障害専門相談の新規利用においては、昨年の 33 名を大きく上回る 64 名の方から相談をいただいた。この人数は、福祉事業部が 26 年間積み重ねてきた「つながり」のもと、皆さまから信頼をいただいている表れと、福祉事業部に対するニーズが高まっている表れと感じる。

また、福祉事業部の強みである地域のなかの多くの方との「つながり」を活かし 2023 年 2 月「スペース　ココカラ。」を開設した。誰もが立ち寄れる地域にひらかれたスペースとして、相談の機能と障害のある方が主体的に参加する活動のなかで主役となる拠点を目指し事業を展開している。

次年度も引き続き、地域のなかで求められるニーズに応えていけるよう、新規利用の方を積極的に受け入れながら、障害のある方々が、希望をもち暮らしていくことにつながるための事業活動を、地域のなかで継続していく。

[重点目標に対する取り組みについて]

①「強み」を活かした事業の発展を目指す

「障害のある当事者、家族、福祉関係機関、ボランティア、商店街など多くの方とのつながり」「障害のある方とのかかわりを通し、積み重ねてきた学び」「支援技術や知識が豊富なベテラン職員の多さ」などの「強み」を活かしながら事業の発展を目指し以下の取り組みを行った。

- 新規利用者の受け入れ拡大等を目的とした職員補充　⇒　ふらっと：1 名　ぽーと：1 名
- 新規利用者の積極的な受け入れ　⇒　319 名の新規利用者（2021 年度：302 名）
- 新拠点の開設　⇒　スペース　ココカラの開設
- 主催イベントの再開と地域におけるイベントへの参加　⇒（主催）ごきんじょ市・おたがいさまフェスタ・烏山もったいないバザー　（参加）極楽フェス・雑居祭り・世田谷区民まつり
- 職員が支援業務へ割く時間を確保するための事務業務の削減と整備　⇒　請求業務の整備
- 事業内容の情報発信に対する工夫　⇒　事業報告フォーマットの整備
- 重点項目の達成状況把握に関する工夫　⇒　管理者会議フォーマットを整備し、達成状況・実績などを毎月開催される管理者会議において確認、課題分析ができるようにした。

② 担い手への環境づくり

全ての事業において担い手である職員が、互いに学び、考え、成長することができる環境づくりを目指し以下の取り組みを行った。

- 福祉事業部全体会の定期開催　⇒　2 カ月毎に全体会を開催し、事例から支援に必要な考え、知識を互いに学び合う機会を作った。
- 研修計画の整備　⇒　職員の業務目標における研修計画フォーマットを整備した。結果、福祉事業部全体の研修受講延べ人数が 2021 年度の 247 人から 296 人に増えた。
- 緊急時対応の整備と確認　⇒　緊急対応におけるフローを整備した。事故報告書も必要な記入項目を

整理し、事故の原因、再発防止策を整理し再発防止につなげる工夫を行った。

・ 処遇改善への取り組み ⇒ 国の処遇改善制度である介護職員等ベースアップ等支援加算を申請し、毎月介護業務推進手当として支給できるようにした。

1．ケアセンターふらっと（障害者総合支援法　生活介護事業・自立生活訓練事業・高次脳機能障害者支援促進事業）

2022年度も新型コロナウイルスの渦中3年目を迎えたが、幸い大きな感染に見舞われることなく、利用者、職員とも1年を乗り越えることができた。

本年度も、ボランティア、研修生も変わることなく訪れ、日常のケアセンターふらっとにおいて刺激と楽しみとなった。

一方、利用者自ら外へ翼を広げ、中学校でのボランティア授業を行なったり、日本意識障害学会において「遷延性意識障害における地域連携」に参加したり、世田谷パブリックシアター学芸プログラム、文化庁ユニバーサル公演事業に参加するなど、当事者として社会活動に協力する姿は、これまでのケアセンターふらっとの活動が更に地域へ一歩踏み出す実感のある1年となった。

（1）運営方針

1．社会生活への主体的な参加
2．いのちと人権の遵守と心身の健康維持増進
3．個性、特性を尊重した活動
4．利用者と家族への支援
5．地域の人たちとの交流

（2）主な取り組みと進捗状況の報告

①生活介護事業

本年度は新規利用者を7名受け入れ、医療的ケアの必要な方々に対し看護師2名を配置するなか、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を利用者と共に対応を考えながら活動を行った。

また、利用者の希望に応じ、区による集団ワクチン接種に協力をし対策の一助とした。待機者が続くなか、年度の後半で新規利用者の受け入れが多くできたことにより利用率の向上を及び、課題である速やかな待機者への対応を実現することができた。

②自立生活訓練事業（利用期限：2年）

2022年度は10名の方が利用終了となり、復職者2名、他施設への移行6名、介護保険へ移行1名、その他1名を送り出すことができた。また、新規で9名の方を受け入れ、一人ひとりの目標に合わせ新たなプログラムを導入し、利用者の高次脳機能障害の個別性に応じたリハビリテーションプログラムを刷新し続けている。

③高次脳機能障害者支援促進事業

世田谷区内全域にわたり、相談員2名を中心に、年間（継続相談も含め）165人の相談を受けた。

④指定特定相談支援事業

担当相談員6名（兼務含む）が障害福祉サービスの利用と個々の生活に必要な支援をその目的に即して計画作成を行う「指定特定相談事業」において、利用者91名の計画相談支援を実施した。

（3）活動状況

①生活介護事業

事業の柱に沿って新型コロナウイルス感染対策を講じながらの活動を展開した。縮小していた外出活動先については、距離を少しずつ伸ばしながら、利用者のニーズに沿った活動先へと広げている。一方、感染症への不安から通所を控えている利用者とも、IT を使用してのコミュニケーション活動を行い、繋がることを可能にしている。

ア. 料理活動

身体機能維持・回復の活動

（リハビリテーション・プログラム、生活支援、健康管理）

イ. 創作活動

ウ. 仲間づくり

エ. 所外活動

オ. 個別支援プログラムの作成と実施

②自立生活訓練事業

利用者の多くが「就労」を希望していることから、就労移行支援事業所、障害者就労支援センター、休職中の職場、リハビリテーション実施医療機関との連携をきめ細かくおこなった。また、単身生活者においては、安全な日常生活を送ることを目標とし、ヘルパー事業者との情報交換を密に行った。

高次脳機能障害があるがゆえに、日常生活での困りごとに悩む利用者も多いことから、グループワークなどを交えながら、買い物や生活のリズムをつける等日々の暮らしの上で、必要な術を再度身に着けられるように多角的なプログラムを実施した。

ア. 健康管理・体力の向上

イ. 高次脳機能障害におけるリハビリテーション

ウ. 身体機能のリハビリテーション

エ. 就労準備

オ. 仲間づくり

③高次脳機能障害者支援促進事業

2022 年度は新規相談 64 名、前年度からの継続相談 99 名の合計で 165 名の相談支援を実施した。

高次脳機能障害の原因別では、約 50%が脳血管性の疾患によるものであったが、近年の傾向として、糖尿病一型や難病などによる二次的な発症が 16%と増加している。従って、地域でのリハビリテーションや生活支援において医療的なケアが必須となるケースが増えている。

年齢別にみると 75%が 40～60 代であり、就労や福祉的就労に向けた相談が多く、見学や体験実習などの同行支援が増えている。また、経済的な面の支援として障害年金の申請などを同時に行うケースもある。このような高次脳機能障害に特化して同行支援を担う相談支援機関は区内ではケアセンターふらっとのみであることから、今後の世田谷区における高次脳機能障害のある人の相談支援体制の整備について、障害者地域生活課と意見交換を実施した。

④指定特定相談支援事業

高次脳機能障害の方々にとどまらず、世田谷地域障害者相談支援センターを運営していることから様々な障害当事者の方々の計画相談を担うことになり、残念ながらお断りすることも多々あった 1 年となった。障害の状況も多岐にわたり、医療とも密接な連携と知識を求められ、実践の中から学び、相談員同士の情報や知識の共有も重要となった。

（4）今後の課題

ケアセンターふらっとは、26年をむかえ、3年目のコロナ禍、スタッフの補充、増える事務作業の効率化、建物の修繕、備品の買い替え、収入と支出のバランスなど事業運営の面では多くの課題が、山積する。

一方高次脳機能障害専門相談でも明らかのように、区内でこの障害におけるリハビリテーション施設としてのニーズは高く相談件数、利用希望人数は増える一方である。

当事者にとって、退院直後の支援からその後希望される、就労を始めとし個々様々な暮らしにたどり着くまでの一貫したサポートは、多職種のチームワークとスタッフの支援力が求められるところであり、さらなる力をつけることが課題となると思われる。

2．ケアセンターwith（介護保険制度　地域密着型通所介護事業）

2022 年度においても少しずつコロナ禍前の活動に近づけるよう、十分な感染予防対策を行いつつ、外出先候補や活動プログラムの変更など適宜検討を重ね実施した。

本年度において利用定員に満たないことについては、昨年に引き続き、これまで関係性のある地域のケアマネージャーを中心に、随時空き情報の提供を行うなど対策を行ってきた。また、区内近隣のあんしんすこやかセンターや訪問看護ステーションなど関係機関を訪問し、事業所紹介を行ってきた。その効果は年度後半に新規利用増として現れてきた。

また地域においては引き続き「困ったときの相談場所」や、「気軽に立ち寄れる先」になることが、ケアセンターwith の役割と考え、今後も利用者の方々と協力しながら、地域での役割を具体的にさせていきたいと考える。

（1）運営方針

① 介護保険制度の適用を受ける被保険者で、高次脳機能障害・若年性認知症のある方々を中心とした利用者に、主体的な社会参加を促すような活動プログラムを提供する。

② 高次脳機能障害などについて当事者、家族、スタッフ、ボランティアが互いに学び合いながら、当事者が機能回復・維持をめざし住み慣れた地域で少しでも長く生活できるような支援を行う。

③ 利用者の自己選択・自己決定を基本に、プログラムを進める。

（2）主な取り組みと進捗状況の報告

① 利用者数の増にむけて

新型コロナウィルス禍の影響による利用者減に対し、2022 年度は利用者増を図るため、ケアセンターwith の事業所の紹介や空き情報等をインターネットサイト（福祉専用事業所紹介サイト）に掲載・更新し、現在関わるケアマネージャーや区内のあんしんすこやかセンターへの事業所紹介や空き情報を提供するなど、昨年度よりもさらに広い範囲で広報活動を行い、多くの関係者に受け入れ可能な状況を知ってもらうよう取り組みを行った。その成果もあり新規利用者も増えてきた。

一方、在宅生活において様々な要因による介護負担増から在宅が困難となったことによる、退所者もあった。

② コロナウィルス感染症対策の実践

・活動プログラムの定期的な見直し（屋外・屋内外出先の検討）

・利用者・職員へのこまめな感染対策への確認と注意喚起

（家庭での検温、到着時の検温、飛沫防止対策、室内換気の適宜管理、適宜手洗いの促し等）

上記の結果、罹患者は出たものの事業所内におけるクラスターにはなることがなかった。

（3）活動状況

・　個々人のスキルを生かした活躍の場作り

『前職で培ってきた技や得意なことを活かした活動の場』を一緒に模索することにより充実した生活や地域社会での自身の役割の発見を目指したが、十分な活動の場を設けることはできなかった。

写真 1）富士フイルム社主催の一般公募の写真展に参加　写真 2）with 玄関横ガラス窓に展示する　ように毎月制作した 2022 年度作品集　写真 3）2022 年ボッチャ世田谷カップに参加（健常者も多数参加）

写真 1)

写真 2)

写真 3)

・仲間と行う楽しいリハビリ

一人では実感や自信が伴わないリハビリも、仲間と一緒に行うことで「楽しく」「積極的」に取り組んだ。言語聴覚士とのグループセッションでは、身近なことをみんなで話し合う談話を通して言語機能の回復が可能となり、外出プログラムでは仲間と一緒に散歩することが歩行訓練を楽しく行える原動力となった。

・　屋外に出て行くことでより充実した生活を送る

外出プログラムを中心に自宅周辺の生活圏内で生活を送ることができる力をつけ、大勢の仲間と一緒に歩くことで気分転換を図りながら運動機能などの維持・向上を目指した。コロナ禍のなかで低下した運動機能も、活動の参加により少しずつ取り戻していった姿も見られた。

・　地域交流のイベント参加を通じて、高次脳機能障害の理解を広げる。

2022 年度も行われた当事者参加のイベント「春の音コンサート」（主催：世田谷高次脳機能障害連絡協議会）では、数名の利用者が積極的に参加した。多くの聴衆の前で自分たちの頑張る姿を見せたい、とイベント近くになると自らスタッフに声をかけて練習を行う姿も見られた. またこのコンサート参加には、当事者自身が事業所のスタッフのみならず、知り合いのヘルパーにも協力を自らお願いするなど主体的な姿が散見され、「主体的な地域活動」がさらに拡大できていることを感じた。

（4）今後の課題

2022 年度では新型コロナウィルス感染の減少傾向が見られてきたことから、活動内容においては外出が多くなり、少しずつコロナ前のような活動が行えるようになってきた。各利用者も積極的に感染対策を行うようになり、ケアセンターwith からの感染者は昨年度同様発生することなく過ごすことができた。

次年度において引き続き当事業所についての広報を行い利用数を増やすことが重要な課題の一つと考える。また、昨年同様スタッフ配置の見直しも適宜行うことが必要と考える。

次年度も引き続き十分な感染対策を行いながら、適宜活動内容の見直しを行い、以前のように活発な活動を実施する日々を利用者が送れるよう支援を続けていきたい。

今年度、利用開始された方たちの多くが若年性認知症といった疾病を抱える方であった。そのため認知症当事者は毎日を大きな不安のなかに身を置き過ごしていることを、直接当事者から学びながら、引き続き我々職員も日々研鑽を重ねていくことが重要であると考える。

3．ケアステーション連（①介護保険法：訪問介護事業、②障害者総合支援法：居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、③自由契約による事業）

新型コロナウイルスの感染が始まり３年が経過した。これまでの経験から、適切な感染症対策を行い感染したヘルパーや利用者に対して必要に応じた対応を速やかに実施し、事業を安定的に継続することができた。

新規利用者も、単発や期間限定も含め、出来る限り受け入れニーズに応えてきた。

また、経営面においては、介護職員処遇改善加算Ⅰ、介護職員等特定処遇改善加算Ⅱ、特定事業所加算Ⅰを１年通して取得した最初の年でもあり、介護業務推進手当・時給アップにより職員の処遇を改善できたことで、仕事へのモチベーションアップにも繋がった。また特定事業所加算は、事業運営のための大きな収入源となっている。

（1）基本方針

1）利用者の心身状況・環境等に応じて、自立した生活ができるように支援する。
2）当事者家族・関係機関等と連携をとり、多様なニーズへの対応をおこなう。
3）利用者のみならず、家族等への支援もおこなう。
4）チームケアを実践しながら個別支援を充実させる。
5）職員の技術の向上に向けて多様な研修をキャリアに応じ実施。特に感染症対策については重点を置く。

（2）主な取り組みと進捗状況の報告

①利用者、ケアスタッフ共に安全な支援を目指す

・感染症対策として、消毒液やマスク等を前年度に引き続きヘルパーに配布した。また抗原検査キットも事前に配布し、自身の体調不良や感染者との接触があった場合には使用するようにした。検査の結果がすぐに出ることは、次の判断が迅速にできる状況下を作り、より安心感を持ってケアに取り組むことが出来た。

②新規登録ヘルパーの確保

・タウンワークに求人を掲載し、男性ヘルパー1名の採用に繋がった。

③研修によるスキルアップを図る

・個別の研修目標に沿った研修を実施したことで、サービスの質を向上させることができた。

（3）活動状況

感染症リスクを抑えるため、活動自粛を続けなければならない状況ではあったが、感染から３年目ということもあり、感染症予防や対応がより明らかになってきたことも確かであった。そのため少しずつではあるが、利用者も活動を広げヘルパーの支援を利用しながら、元の生活に戻ろうとする動きが見られた年であった。

利用者が変わらず地域で生活を続けるために、生活に密着した支援を提供し、時には地域との交流をサポート、利用者自身の可能性をできる限り広げられるように支援を行った。また、チームとして連携をしながら利用者を支えることも大事にしてきた。

事務所内では、事務作業の内容を精査し、事務員に移行できるものは順次移し、サービス提供責任者としての業務ができる時間を確保するようにした。

（4）今後の課題

新型コロナウイルスが5類に移行することが決まってから、これまで自粛していたサービスの復活を望む依頼が増えてきた。しかし5類に移行するとはいえ、感染症がなくなるわけではないので、引き続き感染症対策を行いながら、安全なサービスを提供する。

現在登録ヘルパーの約6割が60代以降で、年度末に実施した契約更新の面談では、計画的な引退を希望する声が数名からあがった。長期的な事業運営を続けるためにも、来年度以降も求人掲載等を積極的に利用し、新しい人員の確保に努める。また在籍のヘルパーには、少しでも長く在籍してもらえるよう、個人の体力やスキル等に合わせたサービスを提供していく。

事務作業については、来年度も引き続き、事務員への移行や効率化も含め検討を続ける。

4．「ケア相談センター結」（介護保険　居宅介護支援事業）

2022年度も協会の各福祉事業との連携を図りながら、地域における高齢者並びに障害者個々のニーズに対応し、その人らしい生活の支援を行った。ガン末期や若年性認知症のケース、生活保護を受給し障害を抱えるケースなど関係部署との連携が必要なケース、特に今年度はコロナ感染による個別対応と医療機関との連携が目立った。高次脳機能障害のケースではケアステーション連、ケアセンターふらっと、ケアセンターwithとの連携を持ちながら対応した。

（1）運営方針

要介護認定を受けた利用者に対して、個々の解決すべき課題、心身の状況、おかれている環境に応じた「保健・医療・福祉の総合的かつ効果的なサービス」を提供する。「利用者によるサービス選択」を主に、適正な居宅サービス計画及びマネージメントを展開する。

（2）主な取り組み

①適正な居宅サービス計画及びケアマネージメントの提供

要介護状態にある高齢者及び第2号被保険者に対し、一体的に介護サービスを提供するために、一連のプロセスをもとに展開を行った。

①インテーク　②アセスメント　③ケアプラン作成　④ケアプランの実施・管理

⑤モニタリング・再アセスメント⑥終結

これらのプロセスはPDCAサイクルを基本とし、計画を立て実行し、その結果を評価した上で改善・向上を図った。

2022年度　新規居宅サービス計画作成数　5件

②介護保険の更新申請代行並びに介護保険の認定調査の実施

介護保険に関する更新申請代行件数15件。介護保険の認定調査は「新型コロナウイルス感染症に係る要介護認定の臨時的な取扱い」により更新認定期間が延長されるケースが多く、2022年度の認定調査は実績なし。

③ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

若年性認知症・障害・成年後見・就労継続のケースなど関係各所との連携を持ちながら対応した。

（関係機関等）

各保健福祉センター生活支援課（生保担当）、地域支援課（障害担当）、世田谷成年後見センター、世田谷各地区あんしんすこやかセンター、医療機関ＭＳＷなど（三宿病院、関東中央病院、東邦大学大橋病院、成城リハケア病院、玉川病院、東京女子医大、順天堂大学病院、東京医療センター、慈恵医大第３病院など）

④高次脳機能障害者の専門窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプラン作成

高次脳機能障害をもつ当事者及び家族の相談窓口として、介護保険制度に関する情報提供を積極的に行った。相談業務に関しては、「ケアセンターふらっと」と連携して行った。

（３）活動状況

①ケアに関するあらゆる相談、関係機関との連携・コーディネート

・世田谷区認知症初期集中支援事業対象者（男性）で夫婦のみの生活保護世帯のケース。
認知症の進行により区分変更申請を行いながら、生活保護ワーカー、あんしんすこやかセンターと連携を取りグループホーム並びに特養への入所を検討。現在は平日ケアセンターWithの通所利用とケアステーション連のヘルパーサービスを提供する。

・高次脳機能障害（記憶障害）の２号被保険者で単身独居（男性）。障害者枠で一般就労中。
世田谷区成年後見センター（任意後見）で金銭管理、就労先との連絡・連携を行う。ケアステーション連で生活援助・通院同行など行いながら生活を支える。

②高次脳機能障害者の専門窓口として、特に介護保険制度・障害者総合支援法に関する積極的な情報提供とケアプラン作成

・高次脳機能障害（左被殻出血）右上下肢麻痺　失語症。２号被保険者（52歳男性）要介護４障害区分５　身障１級。介護保険の通所リハビリと週４日の障害サービス生活介護（ケアセンターふらっと）と障害の生活訓練（言語訓練）等積極的なリハビリを利用。高次脳機能障害の移動支援、介護保険の訪問介護の利用より、身体機能の向上と介護負担の軽減が認められ、現在は電動車椅子を利用し活動範囲も大きく広がっている。

・高次脳機能障害（右被殻出血）左上下肢麻痺、左半側空間無視、注意障害。２号被保険者（62歳男性）要介護５　障害区分６　身障１級。　在宅生活スタートして１年。日中は主介護者（奥様）就労。介護保険の訪問介護、障害の居宅介護のヘルパーを中心にサービス提供。通所リハビリ、生活介護（ケアセンターふらっと）、高次脳機能障害の移動支援を利用することにより、意欲・体力並びに身体機能の向上が認められる。

・高次脳機能障害（右被殻出血）左上下肢麻痺　左半側空間無視、注意障害、遂行機能障害。２号被保険者（45歳男性）　要介護２　障害区分４　身障２級。独居。
現在、身体障害者に居室を提供する福祉ホームに入居中。通所リハビリを利用しながら身体機能の回復を目標としている。また、就労継続支援Ｂ型事業所の利用継続と経済的自立を目指している。

（４）今後の課題

現在、居宅介護支援事業は他の在宅サービス事業所と併設しており、単独で収支の均衡を図ることは難しい。在籍する介護支援専門員の担当件数を増やすなど、中長期的には事業所単独で採算が取れるようにしていくことが課題となる。しかし、業務量の増加によるケアマネージメントの質の

低下も懸念され、ICT を活用するなど、さまざまな工夫も必要となってくる。
・ケアマネージメントは利用者やその家族の生活を支え、継続して支援していくことが必要であり、担当者が信頼関係を損なわず継続してケアマネージメントを提供できるようなバックアップ体制作りが課題となる。

5. 地域障害者相談支援センター　ぽーとせたがや

2022 年度も、世田谷地域（世田谷総合支所管内）において、障害があることにより困っている方々、生活のしづらさに「障害」も加わっている方々が、何に困り、どのような希望をもった生活を送りたいかに耳を傾け、「困りごと」を把握し、解決に向けた支援につながるよう取り組んできた。

結果、相談実人数は 304 名となり、相談件数も 2946 件となった。相談者の年代も 20～60 代、障害の種別も様々なうえ、歳を重ねた家族への支援も含まれることもあった。特に今年度は、40～50 代の知的障害の方を中心に親亡き後の生活を心配し、今から準備できることはないかという相談が増えてきた。ぽーとのみで支援をすすめることは難しく、地域の様々な分野の関係機関と共に考え、当事者と共に歩んでいく必要な方が多くいた。

このような状況から、今年度は特に障害分野だけではなく高齢、若者、生活困窮支援など多くの分野の関係機関と連携を強化するための取り組み（地域包括ケアシステムの推進）に力を入れた。

また、2 月にはぽーとせたがやの新拠点でもある「スペース　ココカラ。」を開所した。三軒茶屋の駅に近く、商店街のなかにある立地を生かし、地域にひらかれた様々な活用ができる相談処となるよう取り組みを進めていく。

（1）運営方針

世田谷地域（世田谷総合支所管内）における相談利用者に対し、当事者の意思及び人格を尊重し常に利用者の立場に立った適切な相談支援を行うこと、また、障害分野のみならず世田谷地域の福祉関係事業所と協力、連携し相談支援体制を構築していくことを目的に事業を展開していく。

（2）主な取り組みと進捗状況の報告

①多様な相談、困りごとのための取り組み

ア. 新拠点「スペース　ココカラ。」の開所（2023 年 2 月）
　⇒　相談室の機能と、誰もが立ち寄れる居場所機能をもたせ、三軒茶屋駅近くに位置し、アクセスも便利になり、これまで来所しづらかった方も相談に来られるようになった。
イ. 相談者の希望に合わせ活動を組み立てる事業「ちゃお」の実施（18 回・延べ 35 名参加）
ウ. 行政、障害や高齢の福祉事業所、医療機関、若者支援、教育、生活困窮など様々な関係機関と個別支援会議を実施（延べ 130 件）
エ. 「ぽーとからのお知らせ」活動状況など関係機関へ定期発信（10 回発信）
オ. 精神科訪問医を交えた事例検討会の実施

②障害のある方が歳を重ねたときの支援充実に向けた取り組み

ア. 保健福祉課（障害支援・地域支援）・健康づくり課との連絡会（7 回開催）
イ. 地域ケア連絡会においてぽーと回覧板（事業・ケースの情報）の配布（5 回）
ウ. 地域包括ケアシステムの推進
　⇒　年齢も障害も立場も関係なく、みんながゆるりと集まり知り合えるきっかけを目的とした「ごきんじょ市」の企画・開催。ふるさと区民まつり、雑居まつり、極楽フェスなど地域の企画にも相談者と共に参加した。
エ. 障害、高齢など様々な支援機関との社会資源検討

⇒　世田谷エリア協議会において、障害、年齢関係なく立ち寄れる「よりどころ」を考える企画「話す会」を実施した。

オ．あんしんすこやかセンター企画への参加

（3）活動状況

①　基本相談支援

世田谷地域（世田谷総合支所管内）における相談利用者に対し、当事者の意思及び人格を尊重して常に利用者の立場に立った相談支援を行った。

ア．相談実人数　：　304 名

イ．相談件数　　：　2,946 件

ウ．相談者の希望に合わせ活動を組み立てる事業「ちゃお」の実施（18 回・延べ 35 名参加）

エ．新拠点「スペース　ココカラ。」の開所（2023 年 2 月）

（ア）地域包括ケアシステム推進に向けた対応

年齢も障害も立場も関係なく、みんながゆるりと集まり知り合えるきっかけを目的とした「ごきんじょ市」の企画・開催。ふるさと区民まつり、雑居まつり、極楽フェスなど地域の企画にも相談者と共に参加した。

<ごきんじょ市に相談支援の当時者がボランティア参加>

ア．「ごきんじょ市」の開催

イ．法人主催事業「おたがいさまフェスタ」へ参加

ウ．地域企画「区民まつり」「雑居まつり」「極楽フェス」へ参加

エ．池尻あんすこ「認知症や障害の有無にかかわらず、社会参加プロジェクト」へ参加

オ．上馬地区四者連携事業「上馬まちなかクリーン作戦」へ参加

カ．各地区にて開催されるケアマネ連絡会へ参加

キ．各地区にて開催される、あんすこ主催の地区包括ケア会議へ参加

ク．けやき学級にて事業説明

②世田谷エリア自立支援協議会の事務局

「障害のある方も、希望をもって暮らすことができる地域をともに考える」をテーマに“困った”を話せる関係づくりのためにできることを協議し、企画を開催した。

<話す会のグループワークに障害当事者が参加>

ケ．運営委員会の開催（11 回開催）

コ．話す会の開催（2 回）

7 月：「いやだ！」の奥にある思い、見えますか？聞こえますか？（22 名参加）

3 月：「ほっ」とできて、話せる、笑える　「よりどころ」一緒に考えませんか？（42 名参加）

③指定相談事業者への支援

指定相談事業者連絡会の開催、新規事業者への情報提供、対応に苦慮しているケースに対して事業所と共に支援をすすめる活動を行った。

サ．事業所連絡会の実施（2 回）

シ．精神科訪問医を交えた事例検討会の実施

ス．新規事業者との情報交換（若林おはなキッズ）

（4）今後の課題

年々、相談者の年代や障害種別の幅が広がるなかで、ぽーとのみで支援をすすめていくことはできないことを強く感じている。相談の場だけではなく、関係機関との連絡会、家族会、エリア協議会において様々な立場の方々の声を聞きながら、多角的な視点で地域の方々と共に考えていけるよう取り組みを行っていく必要があると考える。具体的には、ぽーとの活動、支援内容を知ってもらうため複数の方法を用いた情報発信、ぽーとの相談者が参加できる活動ができる場づくり、相談者が参加する地域での活動を通じ障害のある方と地域の方々との距離が縮まっていくことなどがあげられる。

情報発信と活動の実践を重ねることで、障害のあるなしにかかわらずお互いにできることを考え、お互いを思いあうことができる地域づくりにつなげていきたい。

6．パートナーセンター事業

「パートナーセンター」は、認知症と障害のある当事者（以下、「当事者」とする）と、まだ当事者となっていない地域市民や関係者とが双方向に力を出し合い、お互いを支え合う地域の中の仕組み作りを活動の主目的としている。

（1）運営方針

1．共に活動するパートナーのコーディネート（紹介・仲介・同行）
2．当事者の抱える問題について相談を受け、同様の悩みを持つ当事者や支援機関と連携
3．認知症・障害に関する啓発活動（当事者による情報発信）
4．認知症・障害当事者の活動の場の創生及び地域資源との連携

（2）主な取り組みと進捗状況の報告

毎月一回の運営委員会を開催し、当事者運営委員と事業担当職員、パートナーなどで活動内容などを検討した。コロナ禍の状況を勘案しながら地域のイベントへ参加したり、独自企画として「高尾山登山」と「お花見」を実施した。

そして、新たな活動拠点である「スペース　ココカラ。」の開設準備に取り組み、パートナーセンターが古本リサイクルに取り組む「文庫屋」を検討し、準備を進めた。

2023 年 2 月 16 日に多くの関係者の協力いただいて開所となった。当面は木曜日から土曜日の 12:00 から 18:00 までを開所時間とし、運営委員を担う障害当事者と事業担当職員、ぽーとせたがや職員が担当することとした。

活動状況は SNS を活用することで、多くの人たちに活動に関心を持ってもらう取り組みを開始した。また、出光美術館福祉助成事業においてエアコン設置費用の助成を得ることもできた。

（3）活動状況

運営委員会（計 11 回）

2022 年 4 月から 2023 年 3 月までに 11 回実施した。運営委員として障害当事者の方が延べ 40 名、障害当事者のパートナー（同行スタッフ等）も延べ 8 名参加している。今後の活動やイベントについて話し合いを行ってきた。

①地域のイベントへの参加

法人主催イベント「おたがいさまフェスタ」「ごきんじょ市」、地域で開催された「世田谷区民まつり」「雑居祭り」へ出店した。障害当事者の方延べ７名が参加し、リサイクルバザーやボッチャ体験を企画し、来場者と交流を図りながら、広報活動も行った。

②パートナーセンター企画

運営委員会での話し合いを経て、自主企画として「高尾山登山」「お花見」を実施した。障害当事者の方延べ７名が参加した。

（写真：高尾山登山）

③スペース　ココカラ。

□開所式（参加者　当事者：１名　パートナー：３名）

写真：「スペース　ココカラ。」開所式

（４）今後の課題

１．活動内容の充実

拠点である「スペース　ココカラ。」を中心に、当事者が中心となって活躍できる場を広げていく。「文庫屋」は当事者が主体的に運営できるように運営委員を中心に取り組んでいく。

また、当事者が担える地域の中にある「仕事」（役割）と繋がることができるよう、パートナーセンターを広報しながら、近隣の町内会や福祉関係者などとの関係作りを拡げていく。

２．活動資金の調達

独自の活動資金を確保するため、その方法を運営委員と検討していく。また、当時者が講師となる講演会などを企画・開催し、その資料代などを事業収入とする仕組み作りを検討していく。

さらに、助成金の申請や寄付などの働きかけを行い、収入の確保を進めていく。

＊福祉事業部の実績データ・資料は以降に掲載

福祉事業部　実績報告

（1）利用者の状況

①登録利用者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		56	12			68
	With	地域密着型通所				
		43				43
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	
		30	52	77	24	183
相談	結	居宅介護支援				
		49				49
	ぽーと	地域相談				
		304				304
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			
		88	165			253
合計登録者数						900

②性別

部門	事業所	事業名								計
通所	ふらっと	生活介護		自立訓練						
		男性	女性	男性	女性					
		31	25	6	6					68
	With	地域密着型通所								
		男性	女性							
		34	9							43
訪問	連	介護保険		総合支援法		移動支援		自由契約		
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
		16	14	27	25	40	37	11	13	183
相談	結	居宅介護支援								
		男性	女性							
		33	16							49
	ぽーと	地域相談								
		男性	女性	不明						
		143	148	13						304
	ふらっと	特定相談支援		高次脳専門相談						
		男性	女性	男性	女性					
		51	37	112	53					253
合計数						男性	504	女性	383	

③年代別

部門	事業所	事業名																計
通所	ふらっと	生活介護				自立訓練												
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上									
			15	41		0	7	5	0									68
	With	地域密着型通所																
		10代	20～40代	50～60代	70代以上													
				17	26													43
訪問	連	介護保険				総合支援法				移動支援				自由契約				
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	
			3	26	1		16	36			23	53	1		1	23		183
相談	結	居宅介護支援																
		10代	20～40代	50～60代	70代以上													
			1	26	22													49
	ぽーと	地域相談																
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	不明												
		13	119	105	17	50												304
	ふらっと	特定相談支援				高次脳専門相談												
		10代	20～40代	50～60代	70代以上	10代	20～40代	50～60代	70代以上	不明								
			35	53		4	61	84	8	8								253
合計数		10代	17	20～40代	281	50～60代	469	70代以上	75									

④新規利用開始者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		7	9			16
	With	地域密着型通所				
		7				7
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	
		3	6	11	4	24
相談	結	居宅介護支援				
		5				5
	ぽーと	地域相談				
		189				189
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			
		14	64			78
合計新規利用開始者数						319

⑤退所・契約終了者数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		10	10			20
	With	地域密着型通所				
		10				10
訪問	連	介護保険	総合支援法	移動支援	自由契約	
		3	6	8	1	18
相談	結	居宅介護支援				
		4				4
	ぽーと	地域相談				
		0				0
	ふらっと	特定相談支援	高次脳専門相談			
		16	0			16
合計退所・契約終了者数						68

⑥利用率

部門	事業所	事業名			
通所	ふらっと	生活介護 (20名)	自立訓練 (6名)		
		87.0%	81.8%		
	With	地域密着型通所 (18名)			
		65.0%			

※（　）内の数字は、1日当たりの利用定員数

⑦送迎

部門	事業所	事業名			
通所	ふらっと	生活介護			
		委託送迎台数	自主送迎台数	回数	
		3	3	8120	→延べ人数です
	With	地域密着型通所			
		委託送迎台数	自主送迎台数	回数	
		0	3	1840	

（2）ボランティア・実習生の状況

①ボランティア人数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		22	101			123
	With	地域密着型通所				
		31				31
	ぽーと	地域相談				
		35	←ぽーとの相談者がボランティアとして参加した人数(ちゃお18回)			35
合計ボランティア延べ人数					189	

②実習生数

部門	事業所	事業名				計
通所	ふらっと	生活介護	自立訓練			
		25	0			25
	With	地域密着型通所				
		0				0
訪問	連	事業全体				
		0				0
相談	ぽーと	地域相談				
		0				0
合計実習生延べ人数					25	

（3）職員体制　※兼務者を含む人数

部門	事業所	職種																計
通所	ふらっと	管理者		サービス管理責任者		支援員		相談員		看護師		専門職		事務				
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
			1	3		3	7				2	1	4		1			22
	With	管理者		サービス管理責任者		支援員		相談員		看護師		専門職		事務		運転手		
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	
		1				3	2	3			1		1		0		2	13
訪問	連	管理者		サービス提供責任者		登録ヘルパー		相談員		看護師		専門職		事務				
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
		1		3			25								1			30
相談	結	管理者				支援員		相談員		看護師		専門職		事務				
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
		1		2	1													4
	ぽーと	管理者		相談員		事務員												
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時											
		1		5	2		2											10
	ふらっと特定相談	管理者		相談員		事務員			ふらっと高次脳相談	管理者		相談員		事務員				
		正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			正規	臨時	正規	臨時	正規	臨時			
		1		2	3	1	1			1			1					10
合計数																		89

（4）職員研修

部門	事業所	研修名	主催団体	参加人数	計
通所	ふらっと	認知症ピアサポート活動及び認知症初期集中支援事業見学	いずみの杜診療所	1	44
		身体拘束要件緩和問題から見る国家思想	オープンダイアローグネットワークジャパンODNJP	1	
		高次脳機能障害の支援について	ふくろうクリニック	1	
		第４４回てんかん基礎講座	(公財)日本てんかん協会	1	
		認知症ケアの理念と視点	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		認知症ケア研修「世田谷区認知症ともに生きる希望条例及び認知症に関する制度と動向」		1	
		介護職が学ぶフットケア		1	
		認知症があっても笑顔で暮らせる町を作ろう！	横浜総合病院　横浜市認知症疾患医療センター	1	
		若年注意障害の症例について	区西南部高次脳機能障害支援普及事業	1	
		作業療法士繁野玖美さんが語る高次脳機能障害と暮らし	世田谷ボランティア協会	6	
		移動介助とおむつの基礎	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		主体性と自己決定について	世田谷ボランティア協会	8	
		障害福祉の制度概論	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		最新の新型コロナウィルス感染症の動向とKnou-how	東京都看護師協会危機管理室	1	
		令和４年度東京都相談支援従事者現任研修	東京都心身障害者福祉センター	1	
		令和４年度東京都相談支援従事者初任者研修	世田谷区基幹相談支援センター	1	
		事例に学ぶ危機管理の基本の基本最新版	東京都福祉施設士会	1	
		認知症の人と家族への支援	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		第二十三回認知症当事者勉強会認知症の人が「働く」を考える	認知症当事者勉強会	1	
		国際福祉機器展	一般社団法人保健福祉広報協会	3	
		失語症の理解とコミュニケーション方法	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
		令和４年度東京都障害者虐待防止・権利擁護研修	公益財団法人東京都福祉保健財団	1	
		虐待防止と権利擁護　本人中心の支援に向けて	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	

通所	ふらっと	身体拘束廃止に向けたリスクマネジメント研修　利用者を守る、職員を守る、身体拘束０の進化へ	東京都社会福祉協議会	1	
		福祉避難所　図上演習　勉強会	世田谷区障害者地域生活課	1	
		２０２２年障害者支援施設等の新型コロナウイルス感染防止対策	東京都看護協会	1	
		記憶障害について	区西南部高次脳機能障害支援普及事業	1	
		サービス管理責任者更新研修	東京都福祉保健局	3	
	With	認知症ケア研修　認知症の理解	社会福祉法人 世田谷区社会福祉事業団	1	9
		高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団	1	
		ゼロから学べるアルツハイマー病	ふくろうクリニック	1	
		プライバシー保護		4	
		調理従事者向け職員衛生講習会	世田谷保健所	1	
		半側空間無視の理解とリハビリテーション	東京都慈恵医大リハビリテーション医学講座	1	
訪問	連	【全体研修】認知症の人への配慮＆対応法	ヘルパー向け自主研修	26	207
		【全体研修】虐待かもしれないと感じた時どうする	ヘルパー向け自主研修	26	
		【全体研修】安心感を持ってもらえる接遇を目指そう	ヘルパー向け自主研修	26	
		【全体研修】倫理・法令遵守	ヘルパー向け自主研修	26	
		【全体研修】事故再発防止を事例から学ぼう	ヘルパー向け自主研修	26	
		【全体研修】医療職に伝える力を磨いて緊急時に備える	ヘルパー向け自主研修	26	
		【全体研修】熱中症＆食中毒を防ぐ	ヘルパー向け自主研修	26	
		東京都虐待防止・権利擁護	公益社団法人東京都福祉保健財団	1	
		主体性と自己決定の尊厳	ケアセンターふらっと	2	
		作業療法士と私	ケアセンターふらっと	1	
		クレーム・苦情対応	ヘルパー向け自主研修	1	
		介護術	ヘルパー向け自主研修	3	
		交通安全	ヘルパー向け自主研修	1	
		ヘルパー体験談	ヘルパー向け自主研修	1	
		高次脳機能障害の基礎的理解と支援	ヘルパー向け自主研修	1	
		障害の理解	ヘルパー向け自主研修	2	
		利用者・家族からのハラスメント	ヘルパー向け自主研修	1	

訪問	連	介護保険の制度を学ぶ	ヘルパー向け自主研修	1	
		高齢者の薬＆生活の影響(湿布薬)	ヘルパー向け自主研修	1	
		高次脳機能障害の移動支援を学ぶ	ヘルパー向け自主研修	2	
		清拭を学ぶ	ヘルパー向け自主研修	1	
		介護職のためのアンガーマネジメント	ヘルパー向け自主研修	1	
		失語症の理解とコミュニケーション方法	世田谷区福祉人材育成・研修センター	3	
		サービスの連携	ヘルパー向け自主研修	1	
		嚥下障害の理解とケア	世田谷区福祉人材育成・研修センター	1	
	結	パーキンソン病治療の多職種連携を語る会　～病期を考慮したパーキンソン病薬物療法～	武田薬品工業株式会社	1	14
		高齢者虐待防止研修	(公財)東京都保健福祉財団	1	
		高次脳機能障害と地域支援	北多摩南部・区西南部地域リハビリテーション支援センター	1	
		認知症の人々の不安		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」「セクシャルマイノリティー研修」多様性を認め合い　自分らしく暮らせる地域社会を目指して～	世田谷区福祉人材・研修センター	1	
		「主任介護支援専門員更新研修」高次脳機能障害支援力向上研修「基礎」「高次脳機能障害の基礎的理解と支援」～明日から使える支援のコツ～		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」「障害福祉の制度概論」～切れ目ない支援を目指して～		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」　障害福祉の理解研修（Web研修）　「精神障害の理解と支援」～当事者と家族を支える支援者を目指して		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」「若年認知症の理解と支援」		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」　職員による高齢者・障害者虐待と職員が受ける「ハラスメント」の防止		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」（動画研修）「スーパービジョン」		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」高次脳機能障害支援力向上研修「応用」「高次脳機能障害のリハビリテーション」～地域で生活するために～		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」「高齢者虐待対応研修　第1回」～インテーク力の向上と事実確認の思考プロセスについて～		1	
		「主任介護支援専門員更新研修」「高齢者虐待対応研修　第2回」精神疾患を抱えた養護者による虐待について～発見から終結～		1	

相談	ぽーと	世田谷区認知症と共に生きる希望条例　及び認知症に関する制度と動向	世田谷区福祉人材・研修センター	1	22
		身体拘束要件緩和問題から見る国家思想 何故身体拘束をしやすくしようとするのか	オープンダイアローグ・ネットワーク・ジャパン	2	
		ぽーと　初任職員研修	世田谷区	1	
		基本相談スキルアップ研修～支援者としての基本姿勢～	基幹相談支援センター	1	
		本人・家族とのコミュニケーション	世田谷区福祉人材育成研修センター	1	
		令和4年度第1回権利擁護事例検討会	世田谷区社会福祉協議会	1	
		障害基礎年金説明会	世田谷区保健福祉課	2	
		セクシャル・マイノリティ研修	世田谷区福祉人材育成研修センター	1	
		発達障害に関する参加型学習会 一緒に考えよう！今私たちができる支援	世田谷区発達障害相談・療育センターげんき	1	
		介護保険と障害福祉サービス ～障害者の方の高齢化に向けての準備～	基幹相談支援センター	1	
		基本相談スキルアップ研修 ～雑談からみえる課題とその背景～	基幹相談支援センター	1	
		ゲートキーパー講座　第１回　寄り添うとは～具体的に私たちにできること～	保健センター専門相談	1	
		ゲートキーパー講座　第２回　寄り添うとは～具体的に私たちにできること～	保健センター専門相談	1	
		リカバリー全国フォーラム2022	認定NPO法人地域精神保健福祉機構	1	
		自殺予防対策普及啓発研修 ～ゲートキーパー講座～	世田谷区	1	
		世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」事業説明会	リンク	1	
		みんなで学ぼう家族ケア～統合失調症編～	保健センター専門相談	1	
		基本相談スキルアップ研修～障害特性のとらえ方～	基幹相談支援センター	1	
		令和4年度東京都精神障害者地域移行促進事業	社会福祉法人 めぐはうす	1	
		基本相談スキルアップ研修～依存関係と支援者の感情コントロール～	基幹相談支援センター	1	
			合計研修参加数	296	

Ⅲ. 組織推進部

2022年度は、コロナ禍における感染対策を徹底した。一方、行動制限緩和に合わせた各事業の再開に向け、各部が円滑に進められるよう組織推進部が中心となって関係情報を収集し、方針を示し、協会全体で共有しながら取組みを進めたことにより、新型コロナウイルス感染前と比較すると事業規模を縮小する場合もあったがバザーや交流事業等が再開できた。

また、活動拠点がなかった烏山地域へのボランティアビューロー設置に向け、ボランティア・市民活動推進部と連携し2023年4月開設に向けた準備を着実に進めた。

一方、コロナ禍により事業が縮小する中、事業収益が減少しており寄附の拡充等自主財源の確保を図る必要があるため、寄付を募る具体的な取組みについて引き続き検討を進めていく。

また、評議員の選任等組織運営において重要な案件を計画的に進め、感染の状況に合わせてオンラインを活用したテレビ会議と会場参加によるハイブリッド方式を取り入れた会議を開催した。

[重点目標に対する取り組み]

（1）コンプライアンス体制の充実

職員のコンプライアンスに対する意識づけと理解を促すことを目的に、主に各部の管理者を対象にした研修会を実施した。また、コンプライアンスの重要性を職員が理解し、より良い職場運営が可能となるよう研修教材による視聴受講を促した。

（2）書類の電子化による事務効率と情報セキュリティの向上

公的書類の電子保存の義務化を受け、書類の電子保存に向けての規程の整備やインボイスに対応するための手続きを進めた。また、給与明細を紙からＷＥＢ明細に変更し紙の削減・発行等の関連業務の効率化、紛失等のセキュリティ上のリスク軽減の観点で事務改善を行い電子化を推進した。

（3）中期行動計画の具体化

中期行動計画の７つの重点項目については具体的に取り組みを進め、例えば烏山地域での新規拠点の整備については、2023年4月開設に向けた準備を進めた。2024年度からの中期行動計画の策定に向け、現計画の取り組み実績を評価・検証し、次期中期行動計画に向けた検討を進める。

また、計画の進捗状況を周知し協会の取り組みについて区民の理解を得ることも重要であることから、周知方法の工夫について検討を進める。

（4）満足度の高い働く環境の整備

職員の働き方に関わる規程類の整備を中心に取組みを進め、適宜、理事会等で審議を図り法令に対応した整備を進めることができた。今後、職員の処遇を改善してくための人事評価や給与制度についても見直しを進めていく。

（5）自主財源の確保と経営の安定化

区内企業から定期的な大口寄附を得ているが、更に寄附を募ることが急務となっている。そのため、新規寄附者を開拓するとともに、既にいただいている寄附者には協会の取組みを更に理解いただき継続的にご協力いただけるよう情報誌や事業案内などを送付し丁寧に協会運営状況をお知らせする。

また、多くの人にとってメリットのある税額控除を活用していただくため、寄附指定団体の更新に向けて寄附者名簿を整理した。代田ボランティアビューローの廃止に伴い自動販売機収入が減収となるため、新たな設置場所の確保に向けて準備を進めていく。コロナ禍でバザー収益などを十分に見込めない状況であるが、自主財源の確保に向けた情報収集を行うと共に、次年度に向けて具体的な対策を立てて進めていく。

1．組織運営

理事会、評議員会、常務理事会等を開催し、円滑な法人運営に努めた。今年度、6月に実施した第1回理事会及び評議員会では、感染対策を徹底したうえで通常開催とした。コロナ禍でもありオンラインを活用したテレビ会議を設け、会場参加とのハイブリッドによる運営を行った。第2回の理事会及び評議員会は円滑な協会運営を行うために臨時で開催し書面決議を行った。

11月に開催した理事会では、補正予算の審議や補充、評議員候補者の決定、法改正に伴う育児・介護休業に関する規則の大幅な改正等について審議・決議した。報告事項では年度の中間報告として事業の進捗状況や予算の執行状況等を報告し、年度後半に向けての取組みについて説明した。

11月に開催した評議員会では、当日になり評議員の欠席が多く議決に必要な評議員の人数（定足数）が確保できず不成立となったため、後日、評議員が書面により議案を決議したが、コロナ禍における会議運営の課題も確認できた。コロナ禍以降、テレビ会議と会場参加のハイブリッド方式で対応しており、会議への参加環境づくりについて引き続き取組む。

新型コロナウィルス感染症の感染状況も低くなり、3月には主に2023年度の事業計画や予算、2022年度最終補正予算等の審議を行い、コロナ禍で進めたテレビ会議と会場参加のハイブリッド方式での対応を維持することで委員の参加の機会を確保することができた。

また新規ボランティア市民活動推進部長の選任については、急遽、第6回理事会を開催する必要があり書面による決議にて実施した。

（1）理事会

回数	開催日	議　決　事　項
第1回	6／8	①　2021年度事業報告案・決算案の承認 ②　役員賠償責任保険契約の決定について ③　2022年度定時評議員会の招集について ④　理事候補者の推薦について ⑤　2022年度定時評議員会の招集事項の決定について
第2回	8／20 ＊議決の省略にて実施（書面決議）	①　常務理事の選定承認の件 ②　ケアセンターwith運営規程の一部変更の承認の件 ③　定款の一部変更における変更の取消の承認の件 ④　2022年度 第2回評議員会の決議の省略での招集事項の決定の件
第3回	11／18	① 2022 年度 第1次補正予算案について ② 常務理事の選任について ③ 評議員候補者の推薦の決定について ④ 育児休業等に関する規則及び介護休業等に関する規則の変更について ⑤ 職員給与規程細目、臨時職員就業規則、登録ホームヘルパー賃金規程の一部変更について ⑥ 福祉事業部の各運営規程の一部変更について ⑦ 2022年度 第3回評議員会の招集事項の決定について
第4回	12／16	① 2022年度 第4回評議員会の決議の省略による招集事項決定の件 ＊議決の省略にて実施
第5回	3／8	①　2022年度 第2次補正予算案について ②　2023年度事業計画案および予算案について ③　職員就業規則の一部変更について ④　臨時職員就業規則の一部変更について ⑤　ボランティアセンター及びボランティアビューローの利用に関する規程の一部変更について ⑥　地域障害者相談支援センター運営規程の一部変更について ⑦　第5回評議員会の招集事項の決定について

第６回	３／31	①　ボランティア・市民活動推進部長の選任について ②　職員就業規則の一部変更について ③　育児・介護休暇等の関する規則の一部変更について ＊議決の省略にて実施

（２）評議員会

回数	開催日	議　決　事　項
定時 （第１回）	６／23	①　２０２１年度事業報告書案・決算書案の承認について ②　理事の選任について
第２回	９／10	①　定款の一部変更における変更の取消の承認の件 ＊議決の省略にて実施（書面決議）
第３回	11／29	①　２０２２年度 第１次補正予算案について ＊開催したが当日に欠席評議員が多く不成立となった。
第４回	１／７	①　２０２２年度 第１次補正予算案の承認の件 ＊議決の省略にて実施（書面決議）
第５回	３／23	①　２０２２年 第２次補正予算案について

（３）監事監査

2021 年度の法人運営について経理・会計処理の確認と、事業内容について監事による監査を実施した。実施日：2022 年６月１日（水）９時 30 分～16 時

（４）常任理事会

法人の日常的な業務や各部の業務執行状況について審議するため、月に１回開催した。

（構成員：理事長、常務理事、事務局：事務局長、各部長等）

（５）評議員選任・解任委員会

法人の新規評議員の選任については、評議員選任・解任委員（監事１名、外部委員２名、職員代表２名）による委員会にて行うこととなっており、理事会にて新たに２名の評議員候補者の推薦が行われたことを受けて選任について審議を行い新規で２名の評議員を選任した。

実施日：2022 年 11 月 24 日（木）15 時～16 時

（６）衛生委員会

①　衛生委員会の開催

産業医の指導のもと、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保するため、定期的（年６回開催）に委員会を開催した。

（委員長：統括管理補助者１名、委員：産業医１名、衛生管理者１名、衛生経験者３名　計６名）

②　職場巡視の実施

拠点施設ごとに産業医と衛生管理者が直接職場を訪問し、各拠点の職場環境や確認や職員から直接話を聞き取り、各職場の労働環境の改善や労働衛生環境の点検を行った。

４月：１拠点（砧ボランティア・ビューロー準備室）
６月：４拠点（with、相談支援センター、連、結）
11月：１拠点（玉川ボランティアビューロー）
12月：２拠点（世田谷ボランティアセンター及びケアセンターふらっと）
２月：１拠点（梅丘ボランティアビューロ）＊統合のため

③　健康診断の実施

職員の健康維持管理のため、雇用保険の対象となる全職員を対象に健康診断を実施した女性職員の多い職場で、オプション健診としていた35歳以上で発症リスクが高くなる婦人科系の癌健診を無料化し受診を進めた。健診結果は産業医に報告し、必要に応じて個々に指導箋を渡した。実施報告については労働基準監督署へ提出した

実施時期：10月～３月　対象人数：67名

④　ストレスチェックの実施

職員のセルフケア対策として心の状態を知っていただく目的でストレスチェックを実施した。実施報告書については労働基準監督署へ提出した

実施時期：１月10日～１月31日　実施方法：ＷＥＢとマークシート方式の併用

対象者：66名　受検者：51名

⑤　消防訓練の実施

火災や地震などのいざという時に備えて、概ね四半期にごとに１回でパーム下馬（複合施設）の各拠点（センター、ふらっと、下馬福祉工房、住宅）と合同で消防訓練を実施している。訓練内容は初期消火、通報、避難誘導等の訓練と想定（火災や地震）を組み合わせて実施している。

実施：６月１４日＝初期消火訓練、＊消防署の協力で実施

11 月 15 日＝地震総合訓練

２月 21 日＝火災総合訓練

２．事務局運営

（１）ボランティアグループ・福祉団体等への後援

コロナ禍のため例年実施されている催しが中止となっていたが、今年度から徐々に再開となったことで今年度の名義使用許可の申請は以下のとおりとなった。

実施日	事　業　名	主　　催
10／９	第４７回　雑居まつり	第４７回雑居まつり実行委員会
12／３	バージの会　内田良子氏　講演会 子どもの声を聴き続けた 50 年 ～相談室「モモの部屋」から～	バージの会

（２）職員・スタッフ研修の充実

①　内部研修の実施（インターネットを活用した職員研修オンデマンドＤＶＤの運用）

職位職制毎にやコンプライアンスやハラスメントに関して、具体的なエピソード等を事例にしたＤＶＤ教材を活用し、適宜、該当職員に周知し視聴研修を実施した。

特に、新規採用の職員に対しては、新人職員研修として、心構え（報告・連絡・相談）の研修やコンプライアンス研修の視聴を実施した。管理職についても、管理者として求められる研修案内を行い適宜視聴を促した。インターネットを活用することでいつでも視聴できるため、計画的な視聴（研修）が実施できるよう研修カリキュラムを組んで実施した。

今年度の研修カリキュラム　＊年間で各自受講科目・時期を設定し研修を進める

職層 分野	新人～ 3年未満	3年以上 ～中堅	主任以上 ～指導・管理職
業務スキル	報連相の基礎知識	成果がかわるPDCA	コーチングに学ぶ人材育成
業務マインド	社会人のマナー等	実力養成P 組織変革の考え方等	管理職の役割と業務 管理職としての行動等
職員指導		新人職員の育て方・伸ばし方	部下の実力を高める OJT
コンプライアンス理解	行動・発言のコンプライアンス違反事例から学ぶ等	コンプライアンス違反の事例研修	・危機管理対応 ・コンプライアンスの必要性等
ハラスメント	・意識改革 ・社会人としての正しい考え方等	・危機管理対応 ・ハラスメント理解と防止対策	上司のハラスメント事例から学ぶ
情報セキュリティ	・社会人としての正しい考え方等 メール、SNSの取扱い	ソーシャルメディアのリスク管理	・危機管理対応 ・情報セキュリティの対策
法令知識	法令違反の事例から学ぶ	コンプライアンス違反をなくすための方策と行動	法令違反とコンプライアンス違反の対応等
ダイバーシティ	さまざまな働き方への理解推進	求められるうつ病への理解	ケース検討 マタニティ・ハラスメント理解
メンタルヘルス	・メンタルヘルス・マネジメント ・職場内のコミュニケーション		

②外部研修等への参加

役職員に外部研修への参加を奨励し、会計及び総務分野でのスキル強化に取り組んだ。

（3）職員体制

常勤職員　　２名（組織推進部長１名／経理担当職員１名）
非常勤職員　　２名（庶務・総務担当職員１名／経理担当職員１名）

3. 財政運営

（1）自主財源拡大のとりくみ

各事業を継続的に運営していくためには、安定した財源の確保は不可欠となるが、コロナ禍において事業収益は大幅な減額となった。法人運営費や、福祉事業における協会の自主事業については運営費補助として行政からの支援を得ているが、各地域の特徴や地域課題への取組みを進めるため、以下の財源確保の諸活動を継続した。

①基本財産の保護と運用

協会が保有する1億円の基本財産は、従来と同様に、銀行の定期預金で安定的に運用した。さらに、満期になる定期については地域での活動をミッションに展開する組織として、地元信用金庫などの地域活動に協力的な金融機関へ口座を新設し、広報や募金箱設置の協力を得た。

②寄附金収入

寄附金は協会の自主財源として効果的に活用している。チャイルドライン事業では、キャンペーンを通じて定期的に寄附があった。また、福祉事業部においては利用者家族からの寄附が多くこのように各事業活動が寄附につながっている。法人の事業活動は区民からの寄附金が重要な財源となっていることから、寄附者へは更に協会の多様な事業や活動を適宜お知らせし関心を高めていただくと共に税額控除の利点を伝えて寄附拡大につなげていく。

③バザー収入

バザー収入も、ボランティア・市民活動推進事業とチャイルドライン事業の重要な財源となっている。2022年度はコロナ禍での実施となるため、密にならない工夫や感染防止を徹底し参加者数を制限する等バザー規模を縮小し実施した。2018年以降コロナ禍で減収が続いているが、地域の催し等の機会を活用し、協会事業活動の周知と合わせてバザーの機会を検討し、多くの方が参加できるよう工夫していく。

＊バザー収入の推移

年度	2022	2021	2020	2019	2018
法人全体	89万円	70万円	48万円	388万円	542万円

④自動販売機収入

代田ボランティアビューローは、代田東町会会館の１階に窓口があるが、駅前にある拠点として立地の利があるため、代田東町会の協力で自動販売機の設置を行っている。拠点の統合で設置は今年度限りとなったが、この先例を生かし販売機の設置協力の募集も募っていきたい。

＊自販機売上げの推移

年度	2022	2021	2020
売上げ収益	69,196円	93,990円	88,338円

⑤事業収入

福祉事業は、事業収入が主な財源となっている。ボランティア・市民活動推進事業等においても、講座の参加費や受託収入等、自主財源の確保に向けた取組みを進める。

（2）世田谷区の補助金

2022年度は世田谷区から、ボランティア・市民活動推進事業および法人運営のため９，９７４万円余、ケアセンターふらっと運営のための６，２９６万円余の補助金が交付された。また、事業費としてもボランティア・市民活動推進事業へ市民活動支援事業として１５０万円が交付された。

また、22年度はガソリン等のエネルギー価格高騰に伴う「エネルギー価格・物価高騰対策給付」として福祉事業の4拠点事業について合計１４３万円余が交付され、ケアステーション連には介護人材採用活動経費助成として１２万円余が交付された。

＊　経常経費補助金収入の推移

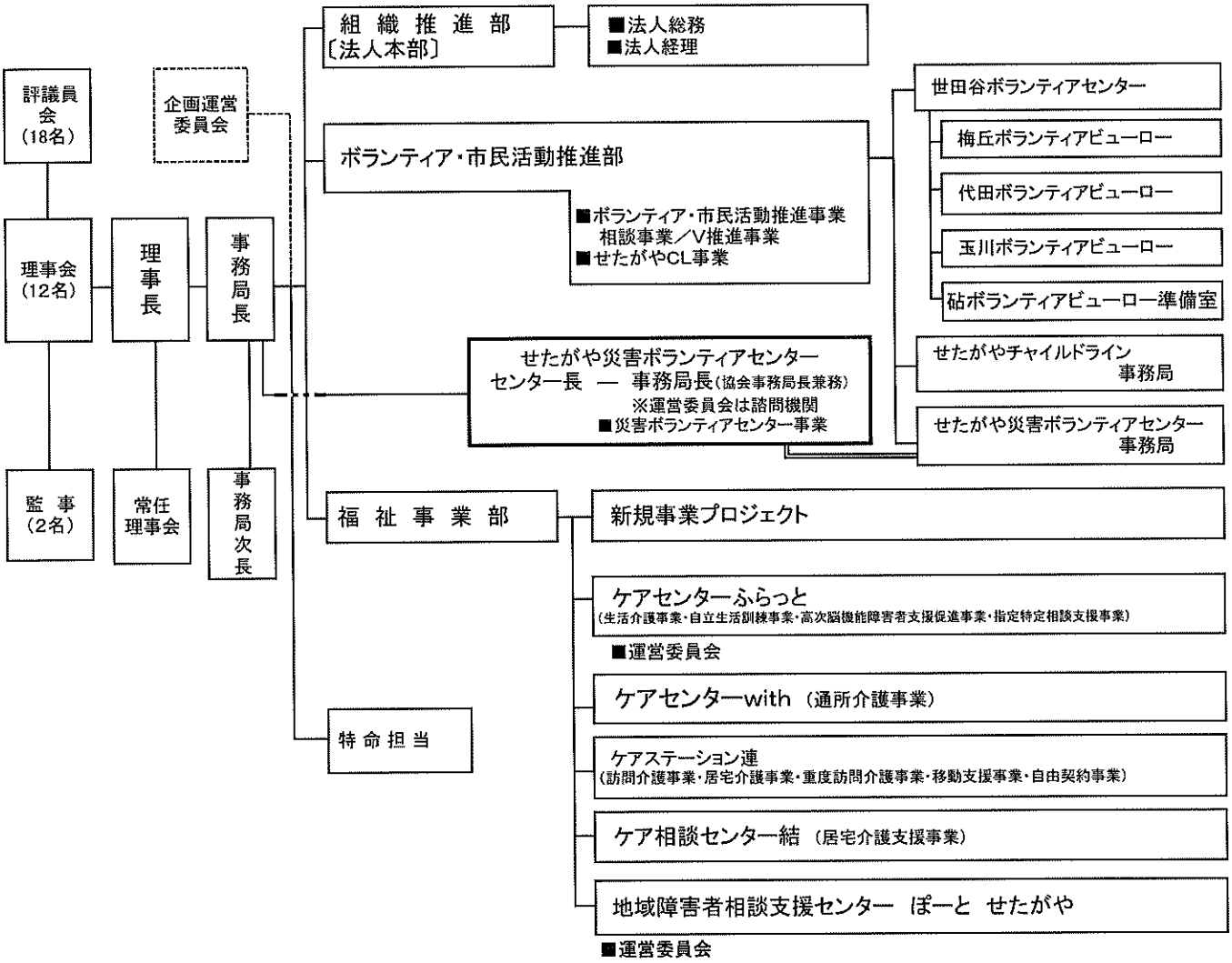
年度	2022	2021	2020	2019	2018
法人全体	1億6575万円	1億6440万円	1億5715万円	1億4264万円	1億2200万円

4. 今後の課題

新型コロナウイルス感染症の対応については、規制が緩和され、コロナ前の日常にどうつなげていくかが大きなテーマとなる。一方で、生活につながるあらゆるものが値上げになる等、さらに日々の暮らしにくさを実感する状況も考えられる。協会全体として、このような背景を敏感に受け止め、市民レベルで応援し、つながりをつくることが新たな事業への取組みともなる。このように、これまでなかった変化を先駆的に具現化していくことが更に必要となる状況において、中期的なビジョンを持って進めていく中期行動計画は重要な指針となる。2023年度で最終年度となる現計画の検証・評価を行い、各事業に求められる具体的な取組みを協会として取りまとめ、区民へ届くようにアピールしていくことで協会への寄附の拡充にもつなぐことができると考えている。

また、組織の社会的な信頼を上げてていくためには、コンプライアンス体制の維持・継続は必須となるため、協会で働く職員が常にベストなパフォーマンスを発揮できるよう仕事に取り組める環境を整える。具体的には、職員同士が情報共有や意見が言えるよう風通しのよい職場環境の整備に努めるとともに、規程の整備や研修の実施等職員が知識や経験を積み、仕事で力を発揮できるよう対応を進めていく。さらに、2023年度は役員改選の年度ともなるため、今後の組織運営を担う人材を確保し、組織を活性化して、地域にとってなくてはならない協会として運営できるよう取組みを進める。

組織体制図

社会福祉法人　世田谷ボランティア協会　　2022年度

組織運営体制図